



国際日本学部

SCHOOL OF GLOBAL JAPANESE STUDIES

「個」を強くする大学。

MEIJI
UNIVERSITY
2026

国際日本学部長
鈴木 賢志（すずき けんじ）

1968年生まれ。明治大学付属明治中学・高等学校、東京大学（法学）、ロンドン大学（修士）、ウォーリック大学（博士）。スウェーデンのストックホルム商科大学欧州日本研究所で10年間教育研究に従事し、オックスフォード大学研究員を経て帰国。日本と北欧の社会システムの比較研究を専門とし、一般社団法人スウェーデン社会研究所の代表理事・所長も務める。

“Multicultural interactions” make the world go round.

学部長メッセージ

「日本と世界をつなぐ」力を身につける。

明治大学国際日本学部は、今年で18年目を迎えました。いまだに本学部の名前を聞いて「国際」が専門なのか「日本」が専門なのかと、戸惑う人が少なくありません。実はこの名前は、本学部が提案し、実現している新しい大学教育の姿を反映しています。

本学部が目指すのは、日本の魅力を世界的な視座から理解し、世界に向けて発信することができる力、そして世界の事情を日本の視座から理解し、日本への教訓を取り出して、日本に向けて発信することができる力の育成です。つまり日本から世界へ、そして世界から日本へ、「日本と世界をつなぐ」力を育てるのが、私たちの使命です。

もちろん「日本と世界をつなぐ」といっても、具体的には様々な方法があります。

たとえばツーリズムの仕事、特に海外から日本を訪れる人々をもてなす仕事をしたいと考えている人は、ツーリズムマネジメントを勉強しつつ、日本のポップカルチャーについても学ぶことで、アニメやマンガをきっかけに日本に興味をもった旅行者たちに、より楽しんでもらえるプランを提供できるようになるでしょう。アフリカの発展途上国の援助に貢献したい人は、アフリカの状況について学ぶとともに、将来、現地の子どもたちが日本に興味をもつ力になれるよう、日本語を教えるための技能を身につけると良いかもしれません。また

日本で英語の教職につきたいと思っている人は、そのための技能の取得に加えて、世界各地の文化的多様性や多文化共生について学ぶことで、英語の教育を通じてより豊かな視野をもつ子どもたちを育てる教員を目指すことができます。

つまり本学部では、決まりきったカリキュラムの中で、あるひとつの分野の専門性を高めていくのではなく、自分だけの「日本と世界をつなぐ」力を想定し、そのために必要な知識を様々な専門分野から横断的かつ複合的に学びます。もちろんその学びの中には、英語による実践的なコミュニケーション能力の向上や、長期・短期の様々な形での海外留学・インターンシップ・ボランティアの経験も含まれています。

それはさながら色とりどりの絵の具が並んだパレットです。本学部の学生は、単に「教養を身につける」ために漫然と色を塗っていくのではなく、「日本と世界をつなぐ」という明確な目的意識のもとで、それらの絵の具を組み合わせ、自分だけのオリジナルな絵を描いていくのです。

日本も世界も、先の見えない流動的で不安定な時代を迎えています。しかし変化に富む時代であるからこそ、それまで立ちほだかってきたカベを打ち破るチャンスが生まれてきます。明治大学が生まれた144年前の日本も、まさにそのような時代でした。私たちもまた、この時代の流れをポジティブに捉えて、ともに前に進んでいきましょう。

動画と記事で学部を知る
「Step into Meiji University」も
ぜひご覧ください



CONTENTS

学部長メッセージ	1
国際日本学部12の特色	3
カリキュラム概要	4
初年次教育科目	5
ポップカルチャー研究領域	6
社会システム・メディア研究領域	7
グローバル共生社会研究領域	9

国際文化・思想研究領域	11
日本文化・思想研究領域	12
日本語研究領域 日本語	13
英語研究領域 英語	15
総合教育科目 第二外国語	19
演習(2・3・4年)	20
海外留学プログラム	21

世界から集う学生	25
座談会 国際日本学部での学びとは?	27
キャリア形成	29
就職実績	30
卒業生メッセージ	31
中野キャンパス	32
入試情報	33

※登場する学生の在籍年次や卒業生の肩書等は2024年度のもので、
2024年以前撮影の写真も掲載しています。

国際日本学部12の特色

グローバル化が進み、多様化する現代社会で活躍できる能力を培うことが国際日本学部の教育の使命だと考えています。国際日本学部12の特色は、目標達成のために構築されたカリキュラムを目的意識をもって学んでいくための指針です。

ポップカルチャー研究領域

マンガ、アニメ、ゲーム、特撮など日本の先端文化が世界から注目を集めています。それら作品の主題や表現とそのメディアや産業とのかかわり、制作を支える技術や流通の形態、国内外における受容のあり方やファン文化、歴史的変遷やその時々の社会的影響などを多角的に分析します。その追求を通じて、現代日本文化と世界とのかかわりを考えます。詳細は P.6

グローバル共生社会研究領域

「世界で活躍する人材」の養成を目指して、国際関係や世界各地の地域研究、多文化共生・異文化理解に関する科目を充実させています。多様な文化背景を有する人々とともに働き、ともに生活することができるように、異文化リテラシーを高め、ダイバーシティ社会を支えるための基礎を修得します。詳細は P.9

日本文化・思想研究領域

グローバル化が進展する時代で活躍するには、外国の文化を受信するだけでなく、日本の文化を発信する能力が不可欠です。その能力を獲得するためには、日本の文化や思想を客観的に見る視点を養い、日本の文化や思想に関する幅広い知識を身につけ、その本質を見極めようとする努力が必要です。思想・哲学から伝統文化までその本質に触れながら日本の心を学びます。詳細は P.12

英語研究領域

母語は無意識で習得できるのに、なぜ第二言語を習得するのは難しいのでしょうか。どうすれば効果的な英語教育ができるのでしょうか。言語学の分野を中心に実践に生かせる理論を学びます。詳細は P.15

日本と世界をつなぐ日本語教育

日本の文化や社会について深く理解し、その知見や情報を発信していくためには、十分な日本語能力が不可欠です。国際日本学部では、日本語を母語としない学生を対象に、入門レベルから上級レベルまで一貫したカリキュラムで独自の日本語教育プログラムを提供し、大学での学びや研究に必要な日本語能力を養成していきます。詳細は P.14

総合的な教育プログラム

社会人文学、ICT (Information & Communication Technology)、日本語表現技術など幅広く学べる総合教育科目、少人数で行う演習、社会連携、実践型の科目、第二外国語などがきめ細かく用意されています。詳細は P.19

社会システム・メディア研究領域

現代日本の基盤となっている社会・経済システム、産業組織、企業経営、メディアなどの最先端の様相とその特質、優位性、課題について知見を深めていきます。同時に、それらを世界と照らし合わせつつ発信し、ビジネスやインフラを高度化させていくための新たな方法を求めています。詳細は P.7

国際文化・思想研究領域

世界各地の文化は、日本を含め、相互に影響しながら発展してきました。歴史、文学、芸術、宗教、哲学といった人文学の諸分野を横断し、様々な地域の古典から現代の最新状況にいたるまで幅広く学びながら、いま私たちが生きている世界がどのように成り立っているのかを考えます。詳細は P.11

日本語研究領域

現在私たちが使っている日本語とはどのような特徴を持った言語なのでしょうか。世界のほかの言語と比較することや歴史的な背景を学ぶことなどを通して、現代日本語の面白さを再発見していきます。詳細は P.13

少人数クラスでの実践的な英語教育

英語の総合的なコミュニケーション能力を磨き、英語で自分の意見を表現し、情報を発信できる能力を育成します。1・2年次は、英語能力試験の結果に基づいて習熟度別の少人数クラスで集中的な英語教育を実施します。また、英語の授業は専任のネイティブ・スピーカー教員を含む英語教育の専門家が担当します。詳細は P.17

国際教育交流の推進

海外留学の経験は、国際的な視野の育成とともに外国語能力の向上のためにも重要ですが、国際日本学部の学生にとっては、日本を相対化して捉え、日本研究をさらに深化させる契機としても大きな意義を持っています。そのためにも英語圏を中心に、短期留学も含めた多様な留学制度を整備し、正課授業の一環として海外留学の促進を図っています。詳細は P.21

多文化共生キャンパスの創成

豊富な国際経験を有した国内の学生や多様な文化的背景を持った外国人留学生を積極的に受け入れています。そうして形成された多文化コミュニティの中で、国籍や民族などの違いを越えてともに学び、講義やゼミ活動、さらにキャンパスライフを通して、実践的に外国語能力や異文化理解力を磨いていきます。詳細は P.25

「世界の中の日本」を自覚して、世界を舞台に活躍できる人材を育成します。

国際社会をリードする次代の人材を育成するため、日本の産業・社会・文化の特質を深く知り、世界の文化・思想と国際関係を幅広く学ぶカリキュラムを多彩な教授陣が実現しました。集中的な英語教育と異文化の深い理解に基づいた、実践的な国際コミュニケーション力を養成します。

〈カリキュラム概要〉

国際日本学専門科目				
ポップカルチャー研究領域	社会システム・メディア研究領域	グローバル共生社会研究領域	国際文化・思想研究領域	日本文化・思想研究領域
漫画文化論A・B アニメーション文化論A・B 日本先端文化論A・B 現代都市とデザインA・B ジェンダーと表象A・B 特撮の歴史と技術A・B 日本漫画史A・B	日本社会システム論A・B メディア社会学 広告とメディアA・B クリエイタービジネス論 ツーリズム・マネジメントA・B グローバル化と金融サービス業A・B ホスピタリティ・マネジメント論A・B テクノロジーと日本社会A・B メディア・アートA・B 組織マネジメントと文化A・B 日本の政治A・B インターネットと社会 日本的流通システム論A・B コンテンツ産業論A・B 日本的ものづくり論A・B 日本技術移転史A・B 知的財産と企業戦略A・B 社会保障論A・B 経済団体研究A・B 都市交通システム論A・B 日本のジャーナリズムA・B 日本人の行動モデルA・B 国際マーケティング論A・B	国際経済史A・B 平和学 アジア太平洋政治経済論A・B 東アジア地域研究A～D 多文化共生論 異文化間教育学A・B 海外留学入門A・B 国際教育交流論A・B 日本とドイツA・B 世界のなかの 아프리카A・B 東南アジア地域研究A・B ヨーロッパ政治経済論A・B ファッション文化史A・B モードの神話学A・B ダイバーシティと社会A・B アフリカと近現代世界A・B グローバル開発学入門 共生と学びのデザイン論 国際関係論A・B ロシアとユーラシアA・B インド経済論A・B 移民政策論	映画史概論A・B フランス文化論A・B 東アジア芸術論A・B 宗教と哲学A～D 比較宗教論 比較文化学A～D ラテンアメリカの歴史と文化A・B 映像文化論A～D 東アジア文化交流史A・B イスラム史A・B ヨーロッパ都市風俗論A～D 近現代イギリス研究A・B 現代アメリカ論A～D	武道文化論A・B 海外日本研究事情 日本表象文化論A・B 近現代日本文学A～D 舞台芸術論A～D 日本の哲学A・B 武道思想史 刀剣文化論 日本の文化伝統A・B 世界から見た日本美術A・B 江戸学A・B 伝統芸能論 歌舞伎・能の美学 日本伝統工芸研究 日本映画文化論A・B 日本の宗教A・B
総合教育科目				
○国際日本学入門講義 ○アカデミック・ICTリテラシー ○学術的文章の作成 ○国際日本学基礎演習 ▲国際日本学講座 ▲学術研究・キャリア開発入門 社会学A・B 政治学A・B 経済学A・B	経営学A・B 西洋史A・B 日本史A・B アジア史A・B 地理学A・B 統計学A・B 人類学A・B メディアリテラシーA・B テキスト分析A・B	スポーツ・身体運動文化A～E 国際日本学実践科目A～E 国際日本学部特別講座A・B 国際日本学特別演習A・B 社会連携科目A～H 海外インターンシップ 海外ボランティア実習	全学共通総合講座 ICT 統計解析入門・応用 ICT データベース入門・応用 ICT 画像編集入門・応用 ICT 動画編集入門・応用 ICT 音楽編集入門・応用	ICTプログラミング入門・応用 ICT Webページ作成 ICT eラーニングデザイン入門・応用 ICT プレゼンテーション 日本国憲法
演習科目	外国語科目	日本語科目		
演習A・B・C・D	英 語 第二外国語	日本語		
海外留学認定科目	○English (Speaking) I・II ○English (Listening) I・II ○English (Reading & Writing) I・II ○Research Paper Writing ○Speech & Presentation ○Advanced Reading & Writing ○Advanced Speaking & Listening ○TOEIC Preparation I・II TOEFL Preparation Advanced Level TOEIC Current English A・B Discussion & Debate Integrated English A・B Literature Reading A・B Practical Drama A・B Business English	ドイツ語 (初級) A・B ドイツ語 (中級) A～D フランス語 (初級) A・B フランス語 (中級) A～D 中国語 (初級) A・B 中国語 (中級) A～D スペイン語 (初級) A・B スペイン語 (中級) A～D 韓国語 (初級) A・B 韓国語 (中級) A～D	△留学生のための 学術日本語 I・II・III ▲Introductory Japanese (General) ▲Introductory Japanese (Vocabulary/Kanji) ▲初級日本語 (総合) ▲初級日本語 (語彙・漢字) ▲中級入門日本語 (総合) ▲中級入門日本語 (語彙・漢字)	▲中級日本語 (総合) ▲中級日本語 (語彙・漢字) ▲中上級日本語 (総合) ▲中上級日本語 (語彙・漢字) ▲上級入門日本語 (総合) ▲上級入門日本語 (語彙・漢字) ▲上級日本語 (聴解) A・B ▲上級日本語 (読解) A・B ▲上級日本語 (文章表現) A・B ▲上級日本語 (口頭表現) A・B ▲日本語能力試験対策 (中級) ▲日本語能力試験対策 (上級)

※国際日本学部は国際日本学科のみの一学科学制です。コースはなく、全カリキュラム(全領域)の中から履修できます。なお、カリキュラムは変更になることがあります。※科目名のあとの英数字は、それぞれ違う内容の講義であることを示しています。※○印は必修科目、△印は外国人留学生のみ必修、▲印はイングリッシュ・トラックの学生を対象とした科目となります。※イングリッシュ・トラックのカリキュラムは、国際日本学部ホームページをご確認ください。

新しい初年次教育

総合教育科目

初年次教育科目

2023年度から新しい初年次教育が始まりました。

国際日本学部の7つの専門領域への導きとなる入門講義や、自律的な研究を行う基礎力をつける学術スキルの実践科目を設置しています。



国際日本学部では、人文科学・社会科学の幅広い専門領域の学びの機会を用意しています。1年次の春学期に、7つの専門領域への導きとなる入門講義を受講し、国際日本学の全体像をつかんでもらいます。どの専門領域に進んでも、自分の専門性を磨きながら、他の領域の知識にも触れ、専門の異なる仲間とも議論を重ねることが、真の教養を身につけ、知性を豊かにしていくことにつながります。そうした、自律的な研究を行う基礎力をつけるために、少人数クラスによる学術スキルの実践科目3つを、1年次の春学期・秋学期に受講します。

国際日本学入門講義（1年次春学期）

国際日本学部には、「ポップカルチャー研究」、「社会システム・メディア研究」、「グローバル共生社会研究」、「国際文化・思想研究」、「日本文化・思想研究」、「日本語研究」、「英語研究」の7つの専門領域があります。これらの学問が、それぞれどのような方法でどのようなことを解明しようとしているのかを、各領域の専任教員がオムニバス方式で講義します。その領域ならではの独自の世界を知るとともに、世界と日本がどうかかわり合うのかという見方で異なる領域を重ね合わせることで、国際日本学の豊かさや面白さを感じ取ってもらいます。

学術的文章の作成（1年次秋学期前半集中）

大学での学びは、「レポート」と呼ばれる学術的文章にまとめることで確かなものになり、知の共有も果たされます。大学の授業で執筆が求められるレポートには、授業で学んだことに関する自身の理解をまとめるもの、専門文献をひもといて内容をまとめるもの、それらを踏まえて自身の考えを展開するもの、さらには独自の研究に基づいて新たな知見を示す学術論文に近いものまで、様々な種類のものがあり、その種類に応じて書き方も異なります。本授業では、添削を受けながら多様なタイプのレポートの執筆に取り組み、4年間の学びで必要となる執筆スキルを身につけます。

アカデミック・ICTリテラシー（1年次春学期）

大学での研究においては、図書館やデータベースなどの文献情報検索を駆使し、パソコンを用いたコンテンツ作成やデータ分析を自在に実践していくことが求められます。すべての学問の基本となるICTリテラシーを、多彩な活動を通して身につけます。本授業では、主に次の3つを目標とします。まず、Word、Excel、PowerPointなどレポートや論文執筆、発表に必要なスキルを習得すること、次に、研究に必要な情報収集とその整理、分析ができるようになること、そして、ICTを活用し対話的で協働的な学習を各自進めていけるようになることです。

国際日本学基礎演習（1年次秋学期後半集中）

問いを立て、問いにかかわる文献を読み解き、読解を通して考えたことをグループ等でディスカッションし、論点を定めてプレゼンテーションし、学術的なレポートを作成します。文献読解に加えて調査によってデータを集めることもあります。国際日本学部の専任教員の専門分野に即して、たとえば「研究入門」「物語テキスト分析」「コンテンツ／ICT」「日本語の中の外国語」などといったテーマで、少人数のクラスに分かれ、演習形式による学術研究を体験します。基礎演習で土台を完成させたら、2年次からは、自分で専門を決める「演習」科目に進み、国際日本学の学術活動を本格化させます。

〈クール・ジャパン〉を科学する

国際日本学専門科目

ポップカルチャー研究領域

世界的に親しまれ、政府からも輸出文化や観光資源として注目される日本の多様なポップカルチャーを多角的にとらえ、国内外のビジネスや文化交流の場で有用な教養とします。



マンガ、アニメ、ゲーム、特撮など日本の先端文化が世界から注目を集めています。それら作品の主題や表現とそのメディアや産業とのかかわり、制作を支える技術や流通の形態、国内外における受容のあり方やファン文化、歴史的変遷やその時々、社会的影響などを多角的に分析します。その追求を通じて、現代日本文化と世界とのかかわりを考えます。

〈科目一覧〉

- 漫画文化論A・B
- ジェンダーと表象A・B
- アニメーション文化論A・B
- 特撮の歴史と技術A・B
- 日本先端文化論A・B
- 日本漫画史A・B
- 現代都市とデザインA・B

学生コメント | 日本先端文化論 森川 嘉一郎 准教授

漫画やアニメ、ゲーム、特撮といった日本のポップカルチャーを学問の対象として学んでみたいと考えたのが、この授業を履修したきっかけです。春学期は各分野やコンテンツの歴史的な背景を紐解き、秋学期はポップカルチャーの商業的な側面を取り上げました。様々な知識を得てポップカルチャーへの理解が深まっただけでなく、実践的な課題は発想力や企画力を磨きながら、コンテンツに対する熱意をアウトプットする良い経験になったと感じています。卒業後は授業で培った力を活かして、独自性と実現性を併せ持つ企画を提案していきたいです。



4年 エイミス ノア
Gymnase Provence,
Lausanne卒業



漫画文化論、
ジェンダーと表象
藤本 由香里
教授

東京大学教養学科卒業後、筑摩書房で編集者を務める傍ら、コミック・女性・セクシュアリティなどについて評論活動を行う。講談社漫画賞・手塚治虫文化賞・メディア芸術祭マンガ部門などの選考委員を歴任。米沢嘉博記念図書館の開設にもかかわり、東京国際マンガ図書館設立に尽力中。著書に『私の居場所はどこにあるの?』（朝日文庫）ほか多数。



日本先端文化論、
現代都市とデザイン
森川 嘉一郎
准教授

早稲田大学大学院修了（建築学・修士）。ヴェネチア・ビエンナーレ国際芸術祭日本館コミッションャーとして「おたく」展を制作（星雲賞）。米沢嘉博記念図書館の開設にかかわり、現在、アニメやゲームを含めて扱う東京国際マンガ図書館の設立準備を推進。著書に『趣都の誕生』（幻冬舎）、『マンガ・アニメ展のデザイン』（イースト・プレス）、企画構成を務めた展示に『MANGA⇄TOKYO』（パリ、2018）ほか多数。



日本漫画史、
アニメーション文化論
宮本 大人
教授

漫画の歴史を研究。講義では漫画とアニメーションを、ゼミではポピュラーカルチャー全般を扱っている。明治大学にある漫画の図書館、米沢嘉博記念図書館で展示の企画構成なども担当。東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位取得退学。共著に『マンガの居場所』（NTT出版）など。

最先端の日本の産業・社会の特質を知る

国際日本学専門科目

社会システム・メディア研究領域

現代日本の基盤をなす最先端の企業・産業・社会について
ハード・ソフト両面から考察し、日本の社会システムやメディアと情報、
経営の特質などの優れた点を明確にします。

現代日本の基盤となっている社会・経済システム、産業組織、企業経営、メディアなどの最先端の様相とその特質と優位性について
知見を深めていきます。同時に、それらを世界に発信し、ビジネスやインフラとして普及させていくための新たな方法を求めていきます。

〈科目一覧〉

日本社会システム論A・B	メディアアートA・B	知的財産と企業戦略A・B
メディア社会学	組織マネジメントと文化A・B	社会保障論A・B
広告とメディアA・B	日本の政治A・B	経済団体研究A・B
クリエイタービジネス論	インターネットと社会	都市交通システム論A・B
ツーリズム・マネジメントA・B	日本的流通システム論A・B	日本のジャーナリズムA・B
グローバル化と金融サービス業A・B	コンテンツ産業論A・B	日本人の行動モデルA・B
ホスピタリティ・マネジメント論A・B	日本的ものづくり論A・B	国際マーケティング論A・B
テクノロジーと日本社会A・B	日本技術移転史A・B	



組織マネジメントと文化、
知的財産と企業戦略

小笠原 泰
教授

東京大学卒、シカゴ大学社会科学大学院および経営大学院修了。戦略・グローバル・ICTを軸に知的刺激を追求。McKinsey & Co.、米国アグリメジャーのCargill社（米国本社、欧州法人勤務）、NTTデータ経営研究所パートナーを経て、2009年より現職。専門は、組織文化論、社会システムデザイン論、社会テクノロジー論。主著に『CNCネットワーク革命』『なんとなく、日本人』『日本型イノベーションのすずめ』『2050 老人大国の現実』などがある。



日本的ものづくり論

呉 在恒
教授

ソウル大学経済学部卒業後、東京大学大学院経済学研究科にて修士・博士課程修了。博士（経済学）。リヨン大学「東アジア研究所」研究員、東京大学ものづくり経営研究センター特任准教授などを経て、2008年より現職。専門は技術・生産管理論、国際経営論。著書に『ものづくり経営学』（共著）、『「日中韓」産業競争力構造の実証分析』（共著）などがある。



広告とメディア
小野 雅琴
准教授

中国・武漢大学外国言語文学学部を卒業した後、慶應義塾大学大学院に進学。同大学大学院商学研究科後期博士課程修了。博士（商学）。株式会社博報堂にて、ストラテジックプランニングディレクター、上席研究員を経て現職。専門は広告論など。著書に『マーケティング・コミュニケーション大辞典』（分担執筆）などがある。



テクノロジーと日本社会、
コンテンツ産業論

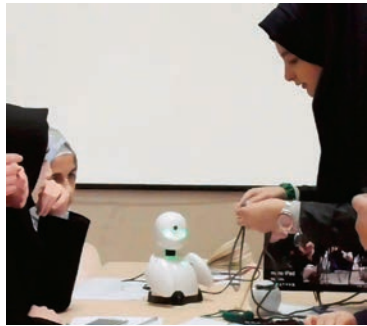
田中 絵麻
准教授

早稲田大学大学院アジア太平洋研究科国際関係学専攻・博士課程修了。博士（学術）。財団法人国際通信経済研究所、一般財団法人マルチメディア振興センターを経て2019年より現職。専門は、ICT政策、コンテンツ産業論。主著『米国における通信法の適用範囲を巡る議論と政権交代による影響の考察』（2017年「情報法制研究」）。



科目紹介 | インターネットと社会 岸 磨貴子 教授

インターネット社会では、知識はもはや個人や組織、専門誌などの所有物ではなく、ネットワーク上での共有物になりつつあります。また、知識は専門家が生み出した普遍的な事実だけではなく、誰もが創造し発信できるものになりました。前半では、心理学や社会学の理論や方法論を参考にしながら、インターネット社会を多角的な観点から読み解いていきます。後半では、社会の課題をテーマとして様々なテクノロジーを活用した解決方法を、具体事例をもとに学びます。



分身型ロボット OriHime を用いた難民の教育支援
（本学学生によるトルコのシリア難民との実践研究）



インターネットと社会、
共生と学びのデザイン論、
メディアリテラシー

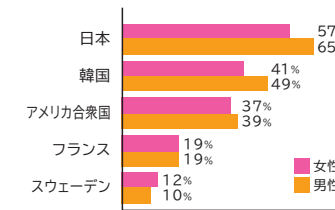
岸 磨貴子
教授

国際ボランティアとしてシリアの国連パレスチナ難民救済事業機関で2年間教育開発に従事。教育におけるICT活用に関心をもち、関西大学大学院へ進学。博士（情報学）。トルコ、シリア、ミャンマー、インド、バングラデシュなど海外の教育機関、政府機関、NGO/NPOと連携して教育実践に取り組んできた。著書は『大学教育をデザインする』。

科目紹介 | 日本社会システム論 鈴木 賢志 教授

世の中には、私たち日本人にとっては「当たり前」でも、海外の人から見ると「不思議」ということがたくさんあります。そしてそういったことは、日本に長く住んでいる人なら、当然、説明できると思われています。「そんな問題、受験に出なかったからワカラナイ」なんて答えたら、笑いものです。「日本社会システム論」では、そんな日本の様々なシステムについての理解を深めます。日本のシステムは諸外国と比べて何が特別なのか、またそのようなシステムは、日本人の価値観や日本企業の行動とどのように結びつけられるのかを論じていきます。

「夫は外で働き、妻は家庭を守るべきである」という考え方に「賛成」「どちらかといえば賛成」という人の割合



資料 内閣府「男女共同参画社会に関する国際比較調査」、2011年



日本社会システム論、
ヨーロッパ政治経済論
鈴木 賢志
教授

1992年東京大学卒業、(株)富士総合研究所、英国ロンドン大学を経て2000年英国ウォーリック大学Ph.D.取得。1997年から10年間スウェーデンのストックホルム商科大学欧州日本研究所に勤務。専門は政治経済学、社会心理学。日本と北欧の社会システムや人々の行動パターンに関する論文を多数発表している。

学生コメント | ツーリズム・マネジメント 佐藤 郁 専任講師

「現代の私たちの暮らしと強く結びついた事柄を学びたい」「日本の魅力を海外に伝えたい」という思いから、社会システム・メディア研究領域を選びました。ツーリズム・マネジメントでは、観光の歴史を紐解きながら、現在の世界や日本の観光事情を学習します。多くのジレンマを抱えるツーリズムの実態を社会問題や環境問題と紐づけながら理解し、観光客がどう振る舞うべきか、何ができるのかを学問的に考察するなかで、娯楽のイメージが強かった観光を新たな観点から捉えられるようになりました。さらに、今まで知らなかった諸問題や観光客としての適切な行動に関する知識が身につき、物事の見方や考え方が広がったと感じています。



2年 田地 希実
千葉県私立
国府台女子学院高等部卒業



ツーリズム・マネジメント

佐藤 郁
専任講師

津田塾大学学芸学部卒業後、(株)ジャルバック入社。ロンドン大学大学院(UCL)空間計画学修士課程、立教大学大学院観光学研究科博士課程修了。博士（観光学）。立教大学観光学部兼任講師を経て現職。専門は観光学。ツーリズムを通じた地域連携や異文化理解など、観光のもつ「力」をテーマに研究を行う。



日本的流通システム論
戸田 裕美子
教授

青山学院大学経営学部経営学科を卒業後、慶應義塾大学大学院商学研究科にて修士・博士課程修了。博士（商学）。日本大学商学部専任講師・准教授を経て、2022年より現職。専門は商業学、流通論、マーケティング史。『文化を競争力とするマーケティング』（共著）、『欧州小売企業の国際展開』（共著）などをはじめ、流通・マーケティングに関する論文を多数発表している。



ホスピタリティ・
マネジメント論
Quek, Mary
特任准教授

Quek Mary is originally from Singapore. She is a graduate of the National University of Singapore (FASS), majoring in Economics and Japanese Studies. She was awarded her MSc in International Hotel & Tourism Management and her Ph.D. in Hotel Management from Oxford Brookes University in the UK. She has worked in Japan, Singapore, the UK and the USA in the hotel, travel and education sectors. Her research interests include the business histories of international hotel companies, and more recently, Singapore coffee culture, and tourism development in Singapore and Japan.



メディア・アート
荒木 悠
特任講師

米国ワシントン大学で彫刻を学び、東京藝術大学大学院映像研究科メディア映像専攻修士課程修了。近年の主な展覧会に東京都写真美術館（2024、2023年）、十和田市現代美術館（2023年）、ポーラ美術館（2020年）、資生堂ギャラリー（2019年）など。作品上映はロンドンICA、マルセイユ国際映画祭、ロッテルダム国際映画祭など多数。令和6年度公益財団法人ポーラ美術振興財団在外研修員。

国際社会および国際関係を学ぶ

国際日本学専門科目

グローバル共生社会研究領域

世界をリードする人材に必要な国際関係や異文化交流の基礎を体得し、国際社会の様々な現象をしっかりと見つめます。世界で活躍する教授陣が実践的な授業を展開します。



「世界で活躍する人材」の養成を目指して、国際関係や世界各地の地域研究、多文化共生・異文化理解に関する科目を充実させています。多様な文化背景を有する人々とともに働き、ともに生活することができるように、異文化リテラシーを高め、ダイバーシティ社会を支えるための基礎を修得します。

〈科目一覧〉

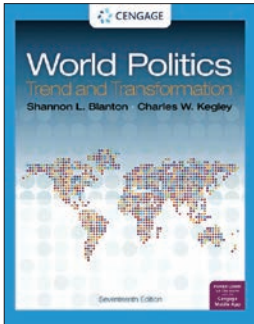
国際経済史A・B
平和学
アジア太平洋政治経済論A・B
東アジア地域研究A～D
多文化共生論
異文化間教育学A・B
海外留学入門A・B
国際教育交流論A・B

日本とドイツA・B
世界のなかのアフリカA・B
東南アジア地域研究A・B
ヨーロッパ政治経済論A・B
ファッション文化史A・B
モードの神話学A・B
ダイバーシティと社会A・B

アフリカと近現代世界A・B
グローバル開発学入門
共生と学びのデザイン論
国際関係論A・B
ロシアとユーラシアA・B
インド経済論A・B
移民政策論

科目紹介 | 国際関係論 Vassiliouk, Svetlana 教授

本授業は、20世紀の国際政治に焦点を当て、国際関係論の理論と歴史を学生に紹介することを目的としています。国際関係論の主な学派を取り上げ、その主要理論により歴史的事件や現在の政策課題を解明することで、学生が現在の国際関係を理解し説明する分析的枠組みを身につけることを目指しています。取り上げるトピック：国際関係論の主な理論、両世界大戦および冷戦における列強間の対立と関係、旧ソ連圏の民主化、冷戦後の国際関係の主要な傾向、グローバリゼーション、グローバルな課題、今後の国際秩序。授業は英語で実施します。



国際関係論、日本の政治、ロシアとユーラシア

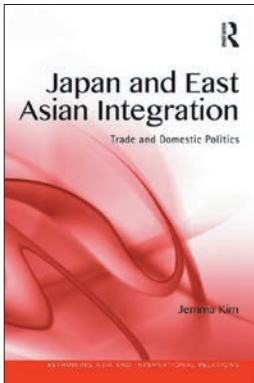
Vassiliouk, Svetlana
教授

旧ソ連ウクライナ生まれ、ロシア育ち。1994年に米国に移住、

2002年より日本に滞在。米国のJohns Hopkins SAISでのMA(International RelationsおよびJapan Studies)取得後、法政大学大学院での博士号(政治学)取得。法政大学やテンプル大学(TUJ)での政治、国際関係の講義、2008～2011年の日本エネルギー経済研究所での研究活動の後、2011年4月より現職。専門は日ソ・露関係、日ソ・露エネルギー関係、ロシアの北極戦略、インド太平洋地域における日本外交。

科目紹介 | アジア太平洋政治経済論 金 ゼンマ 教授

今日、アジア太平洋地域の秩序のパラダイムは二国間FTAを超えて、メガFTAをベースとした広域経済統合の時代に入っています。環太平洋パートナーシップ協定(TPP)、地域的な包括的経済連携(RCEP)、「一帯一路」構想(Belt and Road Initiative)等、様々な枠組みが打ち出され、アジア太平洋地域の新秩序が構築されつつあります。この講義では、重層的に進展する地域統合への動向を踏まえ、アジア太平洋の地域主義は今後どのような方向に進むのか、現状と問題点、今後の課題について考察します。特に、WTOとFTAのあり方、ASEAN+3、TPPなどアジア太平洋の経済連携の動きに注目します。アジア太平洋地域主義を促している政治的・経済的要因を探ることで、アジア地域統合への示唆を見出すことを期待します。



アジア太平洋政治経済論

金 ゼンマ
教授

高麗大学国際大学院(MA)、一橋大学大学院法学研究科国際関係博士課程修了。博士(法学)。一橋大学研究員、早稲田大学助教などを経て、2014年より現職。専門は国際政治経済、アジア太平洋国際関係論。著書に『Japan and East Asian Integration』(Routledge)、『日本の通商政策転換の政治経済学』(有信堂)などがある。ハーバード大学にて客員研究員として研究に従事。

科目紹介 | 多文化共生論 山脇 啓造 教授

日本に暮らす外国人は、1990年代以降、大きく増加し、約360万人になっています。2018年には、新たな外国人材受け入れのために入管法も改正されました。グローバル化や少子高齢化の進展によって、外国人の増加と定住化はさらに進んでいくことが予想されます。そうしたなかで、国籍や民族などの異なる人々が、互いの文化的違いを認め、対等な関係を築こうとしながらともに生きる多文化共生社会の形成が、今後の日本にとって大きな課題となっています。この講義では、全国の外国人が多く暮らす地域を取り上げ、多文化共生の地域づくりについて考察します。その際、自治体の施策を中心に上げますが、市民団体、学校、大学、企業など、地域社会の様々な担い手が果たす役割にも注目します。



多文化共生論、移民政策論

山脇 啓造
教授

コロンビア大学国際関係・公共政策大学院修了。専門は移民政策・多文化共生論。研究成果を実践に生かすため、総務省、法務省といった国や東京都、群馬県などの地方自治体の外国人施策関連委員を歴任。主著に『インターカルチュラル・シティ』(共編、明石書店、2022年)『新 多文化共生の学校づくりー横浜市の挑戦』(共編、明石書店、2019年)など。

科目紹介 | 世界のなかのアフリカ 溝辺 泰雄 教授

アフリカ(サハラ以南アフリカ)は現在、急速に変貌を遂げつつあります。依然として深刻な貧困問題が存在する一方で、都市部を中心に一般にも情報通信技術(ICT)が普及し、政治の民主化も着実に浸透しつつあります。「世界のなかのアフリカ」は、こうした変わり続ける「アフリカの今」をグローバルの視点とローカルの視点の両面から学びます。アフリカを含む英語圏のニュースメディアの記事や映像資料などを使用して、食糧・環境問題や地域間紛争などアフリカが直面する諸問題や、発展を続けるビジネス分野の動向などを深く考察していきます。



ケニア、ナイロビの都心部(2011年9月撮影)



世界のなかのアフリカ、アフリカと近現代世界

溝辺 泰雄
教授

専門は、アフリカ近現代史、アフリカ地域研究。大阪外国語大学大学院言語社会研究科修了。博士(学術)。ガーナ国立ガーナ大学大学院アフリカ研究科留学、日本学術振興会特別研究員PDなどを経て現職。これまでに訪れたアフリカの国は10カ国以上。変貌する「アフリカ」の姿をローカルとグローバルの視点から見つめ続けている。

科目紹介 | 異文化間教育学 平井 達也 教授

異文化間教育の学習は、主に「相手を知ること」「自分を知ること」「自分と相手の間に理解の橋を架けること」の3つから成り立っています。この授業では、講義のみにとどまらず、異文化シミュレーションや心理テスト、ケーススタディやロールプレイなどを通して体験的に自分と相手への理解を深めます。さらに、留学生を交えたグループプロジェクト学習を通して、考えや価値観が異なるメンバーとどのように協力し、新たな価値を作り出せるのかについて、実践的に学びます。



異文化間教育学

平井 達也
教授

一橋大学社会学部を卒業後、九州大学大学院修士/博士課程にて臨床心理学を学び、フルブライト奨学金を得てミネソタ大学大学院(カウンセリング心理学)にてPh.D.取得。研究分野は異文化間教育、キャリアカウンセリング、リーダーシップ教育、ポジティブ心理学など。主な著書は『多文化ファシリテーション』(共著、明石書店、2023年)。

科目紹介 | 国際教育交流論 ピニロス マツダ, デレク K. 特任准教授

国際教育交流論では、国の枠組みを超えた国際理解、国際協力、世界平和の実現に向けた多様な政治、社会制度をもつ人々が相互理解を図りながら関係性を構築していくマインドセットの育成を目的としています。国際教育交流論が対象とする領域は多岐にわたりますが、本授業では特に学習者の移動を伴う留学や教育システムのグローバル化について学びます。エラスムス計画など高等教育の共同体、その中で学生、教員、そしてプログラムの交流を通じた新たな価値の創造や制度的な課題について学んだ上で、具体的な取り組みについて吟味し、国際プログラムを捉える国際教育的視点による批判的思考力を涵養します。



国際教育交流論、海外留学入門

ピニロス マツダ, デレク K.
特任准教授

上智大学大学院総合人間科学研究科教育学専攻博士後期課程修了。博士(教育学)。研究分野は国際教育学的観点からみる移動する人々の文化的アイデンティティの変容、および高等教育機関の国際化による学習者のソフトスキルの育成。主な著書は、『International Education Narratives: Transdisciplinary Educative Innovation Experiences based on Bilingual Teaching』(共著、University of Burgos、2022)

世界の文化・思想を深く学ぶ

国際日本学専門科目

国際文化・思想研究領域

世界の様々な地域の現状と歴史、そして世界の芸術、宗教、文化、思想について、その由来から深く学びます。
それが世界を知り、日本を知る基本となります。

世界の各地域の政治・経済・歴史、世界の文学、芸術、宗教、思想、文化などについて一流の教授陣のもとで古典から現代の最新状況にいたるまで、幅広く修得します。

〈科目一覧〉

映画史概論A・B	比較文化学A～D	ヨーロッパ都市風俗論A～D
フランス文化論A・B	ラテンアメリカの歴史と文化A・B	近現代イギリス研究A・B
東アジア芸術論A・B	映像文化論A～D	現代アメリカ論A～D
宗教と哲学A～D	東アジア文化交流史A・B	
比較宗教論	イスラーム史A・B	



日本の文化・思想の源を学ぶ

国際日本学専門科目

日本文化・思想研究領域

日本の文化・思想について、その根源から学んでいきます。
日本の大学で学んだ者が世界で活躍するためには、ニッポンについてしっかりと説明できる見識を身につけなければなりません。

外国に行くと、必ず日本の社会や文化についてたずねられます。今後、グローバル化がさらに進展する時代の中で活躍するためには、外国の文化を受信するだけでなく、日本の文化を発信する能力が不可欠です。その能力を獲得するためには、日本の文化や思想を客観的に見る視点を養い、日本の文化や思想に関する幅広い知識を身につけ、その本質を見極めようとする努力が必要です。思想・哲学から伝統文化までその本質に触れながら日本の心を学びます。

〈科目一覧〉

武道文化論A・B	日本の文化伝統A・B
海外日本研究事情	世界から見た日本美術A・B
日本表象文化論A・B	江戸学A・B
近現代日本文学A～D	伝統芸能論
舞台芸術論A～D	歌舞伎・能の美学
日本の哲学A・B	日本伝統工芸研究
武道思想史	日本映画文化論A・B
刀剣文化論	日本の宗教A・B



武道文化論、
スポーツ・身体運動文化

長尾 進
教授

1958年、熊本県生まれ。1983年、筑波大学大学院修士課程体育研究科修了。1993年、明治大学商学部助手。2002年、商学部教授。2008年より現職。研究領域は、身体教育学、武道論。現在の研究テーマは、「武道と“国際”」。著書に『剣道の文化誌』（日本武道館、単著）『剣道を知る事典』（東京堂出版、共著）。剣道範士八段。

科目紹介 | フランス文化論 鵜戸 聡 教授

18世紀ヨーロッパの共通語、19世紀世界の外交言語だったフランス語は、いわばかつてのグローバル言語かもしれません。一方それは依然として、北米やアフリカの有力言語、国際機関の公用語であり、芸術や美食のみならず科学とビジネスの言語としても世界中で学ばれています。そのようなフランス語の文化史・社会史を国際日本学として学ぶ「フランス文化論」は、世界各地のフランス語圏の事例を通して、英語中心なグローバル社会観を相対化します。日本美術が西欧美術革新の触媒となったジャポニスム、フランス・ベルギーの伝統あるコミック「バンド・デシネ」、フランス語で書かれたアルジェリア文学なども取り上げ、文化の世界的流通と双方向の影響関係を探ります。



フランス文化論

鵜戸 聡
教授

東京大学大学院総合文化研究科地域文化研究専攻博士後期課程修了。博士（学術）。鹿児島大学法学部准教授を経て現職。専門はアラブ世界を中心としたフランス語圏文学だが、台湾語文化やチベット圏の現代文学など、言語文化に広く関心がある。共著に『国民国家と文学』、訳書にカメル・ダウド『もうひとつの「異邦人」』など。



映像文化論、
映画史概論

瀬川 裕司
教授

東京大学文学部卒業、同大学大学院人文科学研究科修士課程修了。ベルリン自由大学留学、横浜国立大学教育学部助教授、明治大学理工学部教授などを経て2008年より現職。文学博士。専門は映画学およびドイツ文化史。『美の魔力 レーニ・リーフェンシュタールの真実』『映画講義 ロマンティック・コメディ』をはじめ著訳書多数。



比較文化学、
東アジア文化交流史

張 佳能
特任講師

大阪大学大学院文学研究科博士後期課程修了。博士（文学）。日本学術振興会特別研究員（DC）、大阪大学招聘研究員などを経て現職。専門は、音楽を中心とする大衆文化論および文化交流史。古典から現代のポップカルチャーまで、比較文化学のアプローチを取り入れた論文を積極的に発表する傍ら、レコードや舞台に関する文芸欄コラムも多数執筆。



宗教と哲学、日本の哲学

美濃部 仁
教授

和歌山県出身。京都大学で宗教哲学を学ぶ。1992～94年、ドイツのヴッパータール大学に留学。2000年、「フィヒテにおける自己と絶対者」についての論文で京都大学より博士号。明治大学商学部助教授、教授を経て2008年より現職。研究の中心は、ドイツ観念論（とりわけフィヒテ）と京都学派（とりわけ西田幾多郎、西谷啓治）の哲学。



舞台芸術論、
日本とドイツ

萩原 健
教授

慶應義塾大学・東京大学で学び、ボン大学・ベルリン自由大学（ともにドイツ）に留学および研究滞在。元早大坪内博士記念演劇博物館助手。専門は現代の舞台芸術（主に日本とドイツ）。著訳書に『演出家ビスカートアの仕事』（単著）、『パフォーマンスの美学』（共訳）ほか。舞台通訳、字幕翻訳・制作・操作（萩原ヴァレントヴィッツ健）。



近現代日本文学

小谷 瑛輔
教授

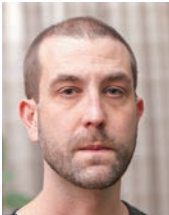
東京大学大学院人文社会系研究科博士課程単位取得退学。博士（文学）。富山大学文学部准教授などを経て現職。専門は日本近代文学。著書に『小説とは何か？—芥川龍之介を読む』（ひつじ書房）、共著に『テクスト分析入門』（ひつじ書房）／『芥川龍之介ハンドブック』（鼎書房）／芥川龍之介『侏儒の言葉』（注釈・文春文庫）など。



日本表象文化論

眞嶋 亜有
准教授

国際基督教大学大学院比較文化研究科博士課程修了（学術博士）。日本学術振興会特別研究員、ハーバード大学ポストドクトラルフェローなどを経て現職。近現代日本の生活文化・家族・心性をめぐる学際的研究。単著『「肌色」の憂鬱—近代日本の人種体験』（中公叢書）で連合駿台学会学術受賞、社会科学文献出版社より簡体字版刊行。



日本の宗教、
比較宗教論

Ward, Ryan M.
専任講師

1974年米国シアトル生まれ。東京大学大学院人文社会系宗教学宗教史博士課程満期退学。文学修士。東京大学死生学研究室特任研究員を経て現職。国際基督教大学、東京農業大学、東京国際大学の非常勤講師を歴任。専門は比較宗教学、近代日本仏教史。英語と日本語の論文は多数。



日本の文化伝統

馬場 小百合
特任講師

東京大学大学院総合文化研究科超域文化科学専攻（比較文学・比較文化）博士課程単位取得退学。博士（学術）。帝京大学文学部助教を経て2024年より現職。専門は日本上代文学における漢字表現、韻文の役割について。論文に『『日本書紀』散文部と歌との接続の問題について』『貴くありけり—『古事記』豊玉毘売の「恋心」と歌の贈答』など。

グローバル化の時代だからこそ、日本語を客観的に見つめ、学ぶ

国際日本学専門科目

日本語研究領域

日本語には、世界の諸言語と比較すると、ユニークな点がたくさんあります。日本語を体系的に学び、日本語を教える立場からも日本語を見つめることによって、日本語の面白さや難しさを再発見し、日本語に関する高度な教養と専門知識を身につけていきます。

国際日本学専門科目

日本語研究領域

現在私たちが使っている日本語とはどのような特徴を持った言語なのでしょう。世界のほかの言語と比較することや歴史的な背景を学ぶことなどを通して、現代日本語の面白さを再発見していきます。

〈科目一覧〉

- 日本語学A・B
- 日本語と社会A・B
- 日本語教育学(文法)A・B
- 日本語教育学(語彙)A・B
- 日本語教育学(音声)A・B
- 日本語の歴史A・B
- 外国語としての日本語教育法A・B



日本語教育学、
初級日本語

小森 和子
教授

東京大学大学院総合文化研究科博士後期課程単位取得退学。博士(学術)。東京大学、九州大学、横浜国立大学、東北師範大学(中国)などで日本語教育に従事し、国際交流基金日本語試験センターで日本語能力試験の開発・分析を担当。専門は第二言語習得論。最近は、語彙の習得過程に及ぼす母語の影響と言語能力の測定に関心をもっている。



日本語教育学、
Introductory Japanese

柳澤 絵美
准教授

上智大学大学院理工学研究科博士後期課程修了。博士(学術)。アメリカの中等教育機関、および、東京大学、東京外国語大学、慶應義塾大学、亜細亜大学などの日本国内の大学で日本語教育に携わる。専門は日本語音声学。日本語の特殊音の研究、日本語学習者のための効果的な発音指導法の開発を行っている。



日本語教育学、
留学生のための学術日本語

安高 紀子
特任講師

九州大学大学院比較社会文化学府修士課程修了。JICA青年海外協力隊日本語教師隊員として、コートジボワール、モロッコの高等教育機関、および、東京外国語大学、東京海洋大学、聖心女子大学などで、日本語教育に携わる。国際交流基金日本語試験センターで日本語能力試験の試験問題作成を担当。日本語学習者の会話能力の測定と評価に関心をもっている。

科目紹介 | 日本語教育学

小森 和子 教授 柳澤 絵美 准教授 安高 紀子 特任講師

この授業では、「日本語」を「国語」という科目としてではなく、「世界の中の一言語」として捉えるところからスタートし、日本語が世界のほかの言語と比較して、どのような点で類似し、どのような点が独特なのかについて、考えていきます。授業では、日本語教師として国内外で豊富な経験を有する3人の教員が、それぞれの専門である文法、語彙、音声の3領域に分かれて、「日本語教育学(文法)」、「日本語教育学(語彙)」、「日本語教育学(音声)」を担当します。授業の中では、日本語学習者が起こす日本語の間違い、学習者が疑問に感じている不思議な日本語の表現、学習者の言語と日本語の違いなど、日本語教師が教育現場で遭遇する実際の例を紹介しながら、「普段何気なく使っている日本語」を「外国語としての日本語」と捉え、グローバルな観点から日本語を学ぶ・教える面白さや難しさについて考えます。日本語教師を目指す人にも、そうでない人にも、日本語を客観的に見つめることで言語に対する感性を磨き、自らの言語学習を振り返る良い機会になるでしょう。



日本語科目

日本語

日本の文化や社会について深く理解し、その知見や情報を発信していくためには、十分な日本語能力が不可欠です。国際日本学部では、日本語を母語としない学生を対象に、入門レベルから上級レベルまで一貫したカリキュラムで独自の日本語教育プログラムを提供し、大学での学びや研究に必要な日本語能力を養成していきます。

〈科目一覧〉

- 留学生のための学術日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ
- Introductory Japanese (General)
- Introductory Japanese (Vocabulary/Kanji)
- 初級日本語(総合)
- 初級日本語(語彙・漢字)
- 中級入門日本語(総合)
- 中級日本語(総合)
- 中級日本語(語彙・漢字)
- 中上級日本語(総合)
- 中上級日本語(語彙・漢字)
- 上級入門日本語(総合)
- 上級入門日本語(語彙・漢字)
- 上級日本語(聴解)A・B
- 上級日本語(読解)A・B
- 上級日本語(文章表現)A・B
- 上級日本語(口頭表現)A・B
- 日本語能力試験対策(中級)
- 日本語能力試験対策(上級)

学生コメント | 外国人留学生のための日本語科目

「留学生のための学術日本語」を履修して、今までの日本語学習と比べて、さらに上の段階まで進み、これからの大学生生活の基礎をしっかりと築くことができました。実践的なアクティビティとグループワークを通して、文献や資料の検索、情報の整理、レポートの作成など、大学生活において必要不可欠な学術スキルを学ぶことができたため、他の科目のレポート課題においても、自分の学習成果や研究課題を思ったとおり滞りなく書くことができました。授業で身につけた「読解ストラテジー」や引用の仕方、参考文献の示し方などのスキル

は、今後の大学での学びにおいて非常に役に立つと考えられます。また、グループワークをベースにした読解活動では、読む力だけでなく、自分の考えを論理的に分かりやすくグループメンバーに伝える力も培うことができました。グループ活動で自分の意見を述べ、相手の主張を理解して返答し、建設的なコミュニケーションを成立させる力は、卒業後も必要になると考えられます。この科目の履修を通して、大学だけでなく、社会においても求められるスキルや能力を身につけることができたと思います。



2年 Liu Ming Nok
G.T. (Ellen Yeung)
College卒業

Topics | 留学生のための学術日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ

大学では、講義を聞いて内容を理解し、テーマに関する文献を読んでレポートを書いたり、調査をして発表したりする学習活動が行われます。そのため、大学で学ぶには、入学前に身につけた基礎的な日本語に加えて、大学での学習・研究活動に必要な日本語の習得が求められます。そこで、「留学生のための学術日本語Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ」では、4年間の大学での学びに必要な学術的な日本語能力、および、アカデミック・スキルを養成していきます。「留学生のための学術日本語Ⅰ」では、「読む」を中心に、文献やレポートなどの文章を読み、内容を正確に理解し、必要な情報を収集・整理する力を養います。「留学生のための学術日本語Ⅱ」では、「書く」を中心に、レポートや論文で用いられる言語表現を学び、実際にレポートを執筆するプロセスを通して、適切な形式や構成で論理的かつ明瞭な文章が書けるようになることを目指します。「留学生のための学術日本語Ⅲ」では、課題解決型のプロジェクト・ワークに取り組み、情報収集、調査、発表などの技能横断的な活動を通して、日本語の運用能力を高めていきます。



グローバル社会を生き抜く英語力を獲得する

国際日本学専門科目 外国語科目

英語研究領域 英語

母語はほぼ無意識で習得できるのに、なぜ第二言語（英語）を習得するのは難しいのか。どうすれば効果的な英語学習・教育ができるのか。また、そうした言語学などの研究に基づいた英語集中プログラムを実施しています。

国際日本学専門科目

英語研究領域

いまやグローバル社会を生き抜く上で必須の道具となっている「英語」。そもそも私たちは音と文字を使ってどのようにコミュニケーションを行っているのか（英語学）、第二言語習得のメカニズムについて、これまでどのようなことが分かっているのか（応用言語学）、日本語と英語はどのように異なり、その違いがどのように私たちの思考や行動に影響を与えているのか（社会言語学）、英語学習のプロセスにモチベーション（やる気）や学習方法はどのような影響を与えているのか（心理言語学）、英語にまつわる様々な課題について幅広く学んでいきます。

〈科目一覧〉

- 言語と文化A・B
- 応用言語学A・B
- 心理と言語A・B
- 英語学A・B

学生コメント | 言語と文化 大須賀 直子 教授

この授業では、主に日本語と英語を比較しながら、文化の違いが言語や翻訳にどのように影響するのかを考察しました。翻訳する際は、原文そのものの意味だけではなく、背景にある文化や言語を使用している国の常識を考慮する必要があります。また、翻訳者や時代によっても差異が生まれてしまうこともあります。授業では実際に有名な小説の一部分や英語のだけじゃれ、ことわざを翻訳。なるべく原文との差異が小さくなるように試行錯誤するなかで、翻訳の難しさだけでなく日本語と英語の言語文化の違いを体感し、言語と社会との関係性について理解が深まったと感じています。AIなどが発達し、翻訳者という存在の必要性を問われている今だからこそ、この授業で学ぶ内容には価値があると思います。今後は、翻訳されている文献を比較研究しながら言語間の違いについて理解を深め、翻訳という分野をさらに探究していきたいです。



2年 吉田 舞衣華
北海道
旭川東高等学校卒業

言語と文化

大須賀 直子
教授



ランカスター大学大学院（英国）で言語学の博士号取得。現在の研究分野は、中間言語語用論、英語教育、翻訳。論文に「Development of pragmatic routines by Japanese learners in a study abroad context」（『Current Issues in Intercultural Pragmatics』John Benjamins）など。その他TOEIC[®]などの教材も数多く出版。

応用言語学

青山 拓実
特任講師



ウォーリック大学（英国）大学院を修了後、島根大学外国語教育センター特別嘱託講師、信州大学学術研究院教育学系助教を経て2025年より現職。第二言語の学びに関わる学習者や教師の心理や、日本の教室環境における第二言語学習のプロセスについての研究を主な専門領域とする。これまでの研究成果は国内外で論文、ブックチャプターとして出版している。

心理と言語

廣森 友人
教授



北海道大学大学院修了（博士）。専門は、第二言語学習の心理学。主要な著書に『外国語学習者の動機づけを高める理論と実践』（多賀出版）、『英語学習のメカニズム：第二言語習得研究にもとづく効果的な勉強法』（大修館書店）、『学ぶ・教える・考えるための実践的英語科教育法』（大修館書店）など。その他、海外・国内のジャーナルに学術論文を多数掲載。

英語学

大矢 政徳
教授



1997年3月、早稲田大学大学院教育学研究科英語教育専攻修了、2002年3月、同大学大学院同研究科教科教育学専攻単位取得退学、2010年3月、School of Computing, Dublin City University 修了（Master of Science）、2014年、早稲田大学より博士（学術）取得。2011年より目白大学外国語学部教育専担専任講師、2014年10月より同大学同学部准教授。2019年から現職。専門：統語論（依存文法）、コーパス言語学（日英パラレルコーパス）

外国語科目

英語

国際日本学部では、入学後に英語力を更に高めるための英語カリキュラムを用意しています。このカリキュラムを担当するのは、ネイティブ・スピーカー教員を含む、英語教育を専門とする教員です。

〈科目一覧（必修科目[※]）〉（※必修科目とは、卒業までに必ず修得する科目です。必修科目以外にも多くの英語科目を提供しています。）

1年次：

- English (Speaking) I・II
- English (Listening) I・II
- English (Reading & Writing) I・II

2年次：

- Research Paper Writing
- Speech & Presentation
- Advanced Reading & Writing
- Advanced Speaking & Listening
- TOEIC Preparation I・II

Rugen, Brian D. 専任教授



Brian Rugen (Ph.D., University of Hawaii) is originally from the U.S. His research areas include: literature and language teaching; discourse and identity; and, English language teacher education. As an applied linguist, he is also interested in the discourse of sport, where he uses methods of discourse analysis in examining various aspects of media discourse, sport, and identity.

McLoughlin, David A. 専任准教授



David McLoughlin has been teaching English as a Foreign Language (EFL) since 1993. He has a Doctorate in Education from the University of Exeter (UK). His research interests include: motivation in second language learning; self-regulated learning; the role of interest in the self-regulation of motivation; attribution theory and second language learning; and the role of affect in self-directed language learning.

Groff, David K. 特任准教授



David Groff is a native of Philadelphia, Pennsylvania (USA). A graduate of Pennsylvania State University (B. A. in English) and Temple University (M. Sc. in Education), his main research interests are translation studies, traditional Japanese culture and philosophy and their presentation in English, and ways in which meditative practices such as zazen may facilitate language learning. His publications include *The Five Rings : Miyamoto Musashi's Art of Strategy*.

Davies, Brett J. 特任教授



Brett Davies received his Ph.D. in Film Studies from De Montfort University and his M.Sc. in TESOL from Aston University. In the field of language acquisition, his research interests include intercultural communication, course and materials design, and bilingualism in children. In film studies, his research focuses on adaptation and intertextuality in screenplays, with particular emphasis on thematic connections between American and Japanese cinema. His latest book is *ReFocus: The Films of Lawrence Kasdan*.

Weinberg, Joel 特任准教授



Joel Weinberg is from Berkeley, California and has been teaching English in Japan since 1997. He is a graduate of the University of California Santa Cruz (B.A. English/American Literature) and Temple University (M.Sc. in Education). His research interests include promoting fluency, motivation, comprehension, and confidence in L2 reading assignments via the integration of technology into the learning process.

Ellis, Sara K. 特任准教授



Sara Ellis is from Portland, Oregon. She received an M.A. from California State University and an M.A.T. from the University of California, Irvine in 2009. Her research interests include creative writing as a means to foster engagement, reflection, and language acquisition in all areas of learning. She is also interested in American and Japanese popular culture with an emphasis on science fiction and comic books.

Frazier, Erin E. 特任講師



Erin Frazier, M.Sc. from The University of Edinburgh, has been teaching English in Japan since 2010. Her research interest includes innovative materials design, using newer technologies to enhance education (AI, AR, VR) and the effects these technologies can have on socio-linguistics.

Garside, Paul M. 特任准教授



Paul Garside is originally from England and has been teaching English in Japanese universities since 2006. He received his M.S.Ed. in TESOL from Temple University (Tokyo Campus) and is currently working on a Ph.D. in Applied Linguistics at the same institution. He has a keen interest in all aspects of second language acquisition, although his main area of research is in the development of fluency and interactional competence.

英語カリキュラムの7つの特長

国際社会で活躍するためには、シチュエーション別に異なる英語力を使い分けなくてはなりません。議論の場では、明確で説得力がある自分の主張を展開でき、速いスピードで話されても相手の意見を理解できる能力。発表の場では、専門的な事柄に関して論理的にプレゼンテーションができ、理由や関連事項を詳しく説明できる能力。エッセイやレポートを書く場合は、自分の考えや情報を正確に表現でき、論旨を論理的に展開できる能力が求められます。このような英語力を外国語検定試験の数値で表すと、TOEIC®L&Rなら800点以上、TOEFL iBT®（アメリカやカナダの大学へ留学する際に要求される英語能力テスト）なら80点以上は必要となり

1. 英語漬けの時間割

英語の必修科目は、1年次に3科目各週2回、2年次に4科目各週2回・1科目週1回実施されます。また、必修科目以外にも英語力を高めるための選択科目が用意されているため、毎日英語漬けの時間割を組むことも可能です。1・2年次に集中的に英語を勉強することで、確実に英語力を身につけます。

2. 豊富な選択科目

Literature Reading、Practical Drama、Integrated English、TOEICやTOEFLの準備講座など、英語の総合的スキルや関連分野を勉強できる選択科目が豊富に用意されています。必修科目に加え、選択科目を履修することで、更に英語力を高めることができます。

3. 2年次秋学期以降は英語圏へ留学

2年次の秋学期以降に、海外の協定校等へ正規の学生として留学することを目指しています。また、1年次の夏休みから参加できる1ヶ月程度の短期留学プログラムも用意されています。例年、1年次終了時点で、約200名の学生が協定留学の一般的な出願要件であるTOEFL iBT®のスコア（61点）に到達しており、その後留学へ挑戦しています（短期プログラム含む）。

4. 習熟度別の少人数教育

英語必修科目のクラスは習熟度別に大きく6～7クラスずつ、3つのレベル（G・J・Sレベル）に分けられています。各レベルに複数クラスが設けられていますが、同一レベル内のクラスの習熟度に差はありません。また、全クラスが20名強の少人数クラスですので、自分に合ったレベルできめ細かい指導が受けられます。

ます。国際日本学部では、これらのスコアを多くのビジネスシーンをカバーできる英語力の基準と捉え、到達目標として掲げています。これらのスコアは平均的な高校生（TOEIC®L&R IPテスト434点^{注1}）が大学に入学して普通に英語を学習していたのでは、クリアすることはほぼ不可能です。皆さんが到達目標を達成できるように、私たちは第二言語習得理論に基づいた科学的な英語カリキュラムを用意しています。英語があまり得意でない人は得意になるように、英語が得意な人はさらに上のレベルを目指すようにデザインされた、日本でも有数の大学英語カリキュラムです。

5. 統一のカリキュラムと教材

同一レベル内においては、クラスが異なっても、統一カリキュラム・教材を採用しているため、同じ進度で勉強します。そのため、クラスや担当教員によって、学習内容・進度・指導方法が異なることはありません。

6. 英語教育専門の教授陣

英語カリキュラムを担当するのは、ネイティブ・スピーカーを含む英語教育が専門の教員です。多くの教員が、欧米の大学院でMATESL（第二言語としての英語教授法修士号）を取得しているので、どのように指導すれば学生が効率良く英語を習得できるか熟知しています。授業では、文法訳読方式などの言語習得に非効率な指導法は用いません。日本語を介さず、学生に英語のインプットを大量に与え、アウトプットできる機会をできる限りつくり、コミュニケーションできる機会を多くつくりだします。

7. 会話を実践する English Conversation Hours

ネイティブ・スピーカーの教員が担当するEnglish Conversation Hoursでは、学生が教員を訪問し、授業の疑問点について質問したり、学習方法のアドバイスをもらったりして、授業以外で学生が英語を多く使えるように工夫されています。普段の授業でなかなか話せない場合でも、この時間を利用して、会話に慣れることができます。

各英語科目の内容について

英語科目で学ぶ内容の詳細を知りたい方は、シラバスを参照してください。

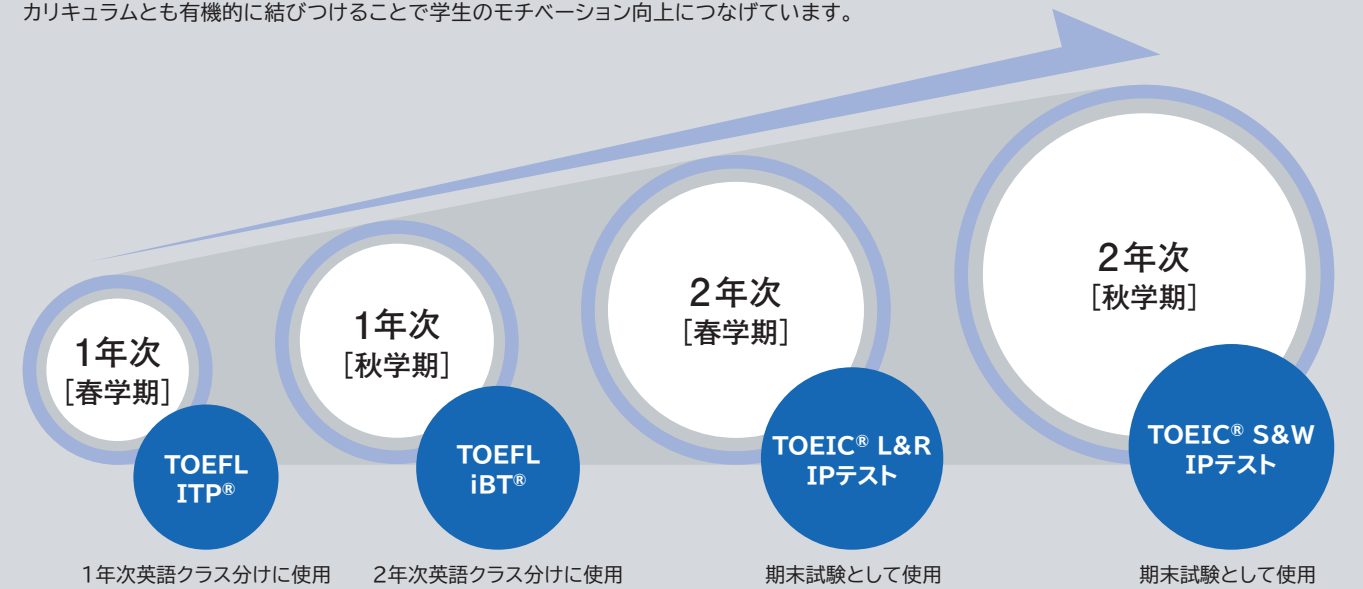
●国際日本学部シラバス



Topics | 英語外部試験の活用と支援体制

英語外部試験の活用

国際日本学部では、2年次修了までの各学期に、実習費を使用して英語外部試験を実施しています。これにより現在の英語力や苦手部分を客観的に把握し、その後の学習計画に役立てることができます。また、そのスコアは英語必修科目の習熟度別のクラス分けや成績評価に利用し、カリキュラムとも有機的に結びつけることで学生のモチベーション向上につなげています。



※TOEFL iBT®とは現在の日本における公式なTOEFL®テストで、コンピュータを利用して受験し、4技能（Speaking, Listening, Reading, Writing）をすべて測定します。
※TOEFL ITP®とはTOEFL®の団体向けテストプログラムで、出題形式はかつてのペーパー版TOEFL®と同一でReading, Listeningを測定します。
※TOEIC® L&R IPテストとは実際に使用したTOEIC® L&R試験の問題を使用し、学内で自由に実施する団体特別受験制度のことで、（TOEIC® L&RはTOEIC® Listening & Reading TESTの短縮名称です）
※TOEIC® S&W IPテストとは実際に使用したTOEIC® S&W試験の問題を使用し、学内で自由に実施する団体特別受験制度のことで、（TOEIC® S&WはTOEIC® Speaking & Writing TESTの短縮名称です）

■TOEFL®への取り組み

留学に必要な英語力習得を目的に、TOEFL®試験を受験する学生に対して、授業のほか以下のような支援制度を実施しています。

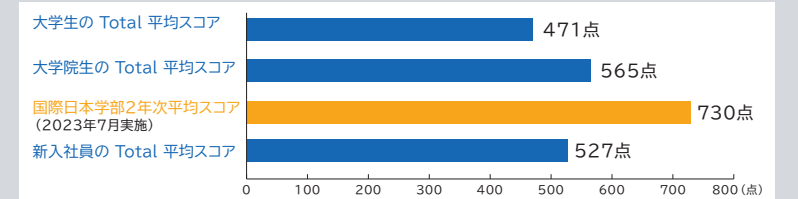
- ▶TOEFL®試験に関するガイダンスの実施
- ▶TOEFL iBT®試験の受験料を補助（上限あり）

この結果、TOEFL iBT®の平均点（1年次）は63点、200名以上の学生が「アカデミック 留学・インターンシップ・プログラム」（P.21）に必要な英語力を習得しています（2025年1月現在）。

■TOEIC® L&Rへの取り組み

2年次の必修科目としてTOEIC Preparationを設置し、週1回受講します。授業の中では試験対策にとどまらず、将来のビジネスや国際社会で活躍できるよう会話やライティングなども取り入れています。また、3・4年次を対象にTOEIC® L&Rの受験料補助制度も導入しています。

■2023年度 TOEIC® L&R 団体特別受験制度（IPテスト）受験者数と平均スコア一覧



出典：一般財団法人 国際ビジネスコミュニケーション協会「TOEIC®Program DATA & ANALYSIS 2024」の「VI-1. 所属学校・学年別受験者数と平均スコア」および「V-4. 社歴別受験者数と平均スコア」より
TOEIC®はエデュケーション・テスト・サービス（ETS）の登録商標です。この印刷物はETSの検討を受けまたその承認を得たものではありません。

学生コメント | 英語教育について

国際日本学部では、1年次から英語必修科目が用意されており、徹底的に英語四技能を磨くことができます。また、英語のクラスは20名ほどの少人数で構成されているため、先生に質問もしやすくアットホームな雰囲気です。私はエッセイを書くことが苦手でしたが、担当の先生が的確なフィードバックをくださったおかげで表現力が身につく、今では800字以上のエッセイをスラスラと書けるようになりました。また、ネイティブ・スピーカーの先生が授業を担当してくださるため、フランクな言い回しや単語の細かなニュアンスの違いなど、実践的な英語を学べることも魅力の一つです。さらに、自由に参加できるEnglish Conversation Hoursでは、担当以外のネイティブの先生や他クラスの学生とも交流でき、国内にしながら英語力を伸ばせる環境が整っています。



3年 藤田 陽梨
長崎県私立
聖和女子学院高等学校卒業

総合的な教育プログラム

外国語科目
総合教育科目 第二外国語

社会人文学、ICT(Information & Communication Technology)、日本語表現技術など幅広く学べる総合教育科目、少人数で行う演習、社会連携、実践型の科目、第二外国語などがきめ細かく用意されています。

総合教育科目

国際日本学部の総合教育科目には、国際社会における日本を考える国際交流や海外での日本研究をテーマとした自発的学習科目である「国際日本学実践科目」、コンテンツ作成や情報発信の基礎を学ぶ「メディアリテラシー」などユニークな科目が設置されています。さらに、専門科目履修の基礎となる社会人文学、必須科目である「国際日本学入門講義」「学術的文章の作成」「アカデミック・ICTリテラシー」「スポーツ・身体運動文化」などを学ぶ科目も設置されています。

〈科目一覧〉

国際日本学入門講義	経営学A・B	スポーツ・身体運動文化A～E	ICT データベース入門・応用
アカデミック・ICTリテラシー	西洋史A・B	国際日本学実践科目A～E	ICT 画像編集入門・応用
学術的文章の作成	日本史A・B	国際日本学部特別講座A・B	ICT 動画編集入門・応用
国際日本学基礎演習	アジア史A・B	国際日本学特別演習A・B	ICT 音楽編集入門・応用
国際日本学講座	地理学A・B	社会連携科目A～H	ICTプログラミング入門・応用
学術研究・キャリア開発入門	統計学A・B	海外インターンシップ	ICT Webページ作成
社会学A・B	人類学A・B	海外ボランティア実習	ICT eラーニングデザイン入門・応用
政治学A・B	メディアリテラシー A・B	全学共通総合講座	ICT プレゼンテーション
経済学A・B	テキスト分析A・B	ICT 統計解析入門・応用	日本国憲法

社会連携科目

この科目は国際日本学部が行政や企業等と連携し、現代社会が抱える諸問題について取り上げます。学生の主体的な学びを推進することを目的とし、講義に加えてグループワークやフィールドワークも活発に行われます。社会の第一線で活躍する企業等から招いた講師によって、実践的な指導を受けることができます。

〈科目例〉（年度によって異なる場合があります）

- ・中野区の都市観光
- ・日本のインバウンド観光
- ・日本のホスピタリティ・マネジメント

外国語科目

第二外国語

国際日本学部では日本語と英語以外の言語は必修科目になっていませんが、現代の世界の物事が英語だけで理解できると考えるのは大きな間違いです。世界中のすべての人にとって、言語は文化の最大の表現であり、信頼の基盤をなすものですから、本当に世界とつながるためには言語を学ぶことが必須です。世界が広がり、ものの見え方も変わってきます。大学院に進学したり国際機関で働いたりする場合には、複数の外国語が要件になることが多いので積極的に取り組んでください。本学部では、ドイツ語、フランス語、中国語、スペイン語、韓国語のクラスを開講しています。さらに、これらの言語の会話クラスなどに加え、イタリア語、アラビア語などの言語も学部間共通外国語科目として履修できます。

〈科目一覧〉

ドイツ語（初級）A・B	フランス語（初級）A・B
ドイツ語（中級）A～D	フランス語（中級）A～D
中国語（初級）A・B	スペイン語（初級）A・B
中国語（中級）A～D	スペイン語（中級）A～D
韓国語（初級）A・B	
韓国語（中級）A～D	

演習科目：多様な学びの組み合わせを可能にする新しい演習スタイル

演習（2・3・4年）*

演習科目は大学での主体的な学びの中心となる授業です。リサーチやディスカッションを通して得られた研究成果を学内外に発表したり、学外にも開かれたイベントの企画・運営を通して、学問の探究や社会実践方法の習得を目指します。国際日本学部では学生の皆さんのニーズに応じて、1つのテーマを深く探究したり、複数の異なるテーマの演習を組み合わせ受講することもできます。教員やクラスメートとともに、皆さんの興味関心に応じた「独自の国際日本学」を創り上げていきましょう。（*一部の演習は3年次以降のみの開講となる場合があります。）

演習テーマ一覧

担当者	演習テーマ
Vassiliouk, Svetlana	Japan's contemporary foreign relations in the Indo-Pacific Region (the IPR)
鵜戸 聡	英仏語で読む中東メディア
呉 在烜	日本企業の研究
大須賀 直子	翻訳を通して考える言語と文化
大矢 政徳	言語学入門
小笠原 泰	デジタルテクノロジー革新とグローバル化による世界のGRAND TRANSFORMATIONについて考える
小野 雅琴	広告の理論を学び、実証する
岸 磨貴子	共生とコミュニケーションに関するアートベース・リサーチ
金 ゼンマ	グローバルゼーションとアジア太平洋の政治経済
Quek, Mary	Project based learning in the hospitality and travel industries
小谷 瑛輔	近現代日本のコンテンツ・メディア・物語
小森 和子	第二言語としての日本語の語彙習得
酒井 信	メディア文化論、ジャーナリズム研究、情報社会論
佐藤 郁	観光による地域活性化・地域プロモーション
鈴木 賢志	スウェーデンの社会システムから学ぶ
瀬川 裕司	高度な批評能力を身につける
田中 絵麻	コンテンツ産業論、ICT政策論

担当者	演習テーマ
田中 牧郎	日本語の謎を解く
張 佳能	文化・芸術諸学を一緒に考えなおす
Davies, Brett	Film Studies: Theory and Practice
戸田 裕美子	日本的流通システム
長尾 進	スポーツと社会
萩原 健	ドキュメンタリー演劇の制作 Creation of Documentary Theatre
馬場 小百合	日本の古典文学の精読
平井 達也	多文化ファシリテーションと インクルーシブリーダーシップ
廣森 友人	外国語学習の科学：理論・研究・実践
藤本 由香里	サブカルチャー／ジェンダー／表現／社会
眞嶋 亜有	日常から多角的に捉える「日本とは何か」： 生活文化・ジェンダー・家族・心性の学際的研究
溝辺 泰雄	Global Happiness Studies ～国内外の事例研究を通して、持続可能な幸福 (sustainable happiness)の実現可能性を考える～
美濃部 仁	哲学
宮本 大人	メディアと大衆文化／サブカルチャー
森川 嘉一郎	マンガ・アニメ・ゲーム／デザイン／都市
山脇 啓造	多文化共生のまちづくり
Leto, Mario	Ecolinguistics: Analyzing the discourse of ecological issues in Japan and abroad
Ward, Ryan M.	「死」の日本宗教史

Topics | 岸ゼミ～日本と世界をつなぐ学生たちの取り組み～

岸ゼミでは、多様性をつなぐ教育・多様性がつながる学習環境デザインを研究テーマとし、「教育工学（Educational Technology）」を土台とした学生主体のプロジェクト型の実践および研究を行っています。そのプロジェクトのひとつに、日本とトルコに避難するシリア難民の高校生たちを情報通信技術（ICT）でつなぎ、ともに学び合う異文化間協働プロジェクトがあります。このプロジェクトは、ゼミの海外フィールドワークで訪問したトルコの孤児院で、シリア難民生徒の「日本に友達ができたら嬉しい」という声を聞いたことから始まりました。ゼミ生は、日本の高等学校を訪問し、日本とシリアの高校生をテレビ会議でつなぎ、難民となった小さな子どもたちへの支援について話し合い、活動を企画し、実施しました。ともに活動を生み出すプロセスで、両者はそれぞれに関心をもち、理解を深め、関係性を築くことになりました。岸ゼミでは、多様性を“つなげる”ための教育工学の知見を活用し、発展させながら、それを研究していきます。



世界から日本を見る留学制度

海外留学プログラム

年間約200人の学生が在学中に海外留学をする国際日本学部。
学部が主催する海外留学プログラムをご紹介します。



中長期留学プログラム



1・2年次に集中的に英語を学習し、留学に必要な英語力を身につけた学生は、2年次秋学期以降にアカデミック留学プログラムやアカデミック・インターンシッププログラムに参加する機会があります。留学先で修得した単位を国際日本学部の単位として認定することができるので、各種条件を満たせば、留学期間を含めて4年間で卒業することができます。

アカデミック留学プログラム

学部が独自で協定を結んでいる協定校への留学プログラムです。現在、アメリカ合衆国・イギリス・スウェーデン・シンガポールの17大学・コミュニティカレッジと協定を締結しています。現地の大学生と一緒に正規の講義を受けられ、また、海外大学やカレッジのキャンパスライフを経験することができます。

ウォルト・ディズニー・ワールド提携フロリダ州立大学
アカデミック・インターンシッププログラム

フロリダ州立大学で授業を受けた後、ウォルト・ディズニー・ワールドでインターンシップに参加することができます。授業で学んだことを業務実習の現場で実践することができる、国際日本学部が主催する人気プログラムです。インターンシップ中も適宜講義などが行われます。

短期留学プログラム



短期間の留学を希望する場合は、長期休暇を利用して海外ボランティアプログラムへ参加することができます。期間は約3週間～4週間で、プログラムを修了すると単位が認定されます。なお、このプログラムは1年次の学生も参加することができます。

海外ボランティア

約3週間～4週間、同世代の現地学生とともにボランティアに参加できるプログラムです。プログラムを通じて、ボランティアやSDGsのこと、そして、異文化への理解と適応力を養成することを目的としています。



中長期留学プログラム アカデミック留学プログラム協定校

アメリカ合衆国 United States of America

フロリダ州立大学
社会科学・公共政策学部
アーツ・サイエンス学部
ニューヨーク州立大学ニューバルツ校
エドモンズカレッジ
エベレットコミュニティカレッジ
グリーンリバーカレッジ
ピアスカレッジ
ジョアラインコミュニティカレッジ
ビュートカレッジ
フットヒルカレッジ
オローニカレッジ
ハワイ大学 カピオラニコミュニティカレッジ
コントラコスタカレッジ
ディアブロバレーカレッジ
ロスメダノスカレッジ

イギリス United Kingdom

オックスフォード大学 ハートフォードカレッジ

スウェーデン Sweden

セーデルトーン大学

シンガポール Singapore

シンガポール国立大学人文・社会科学部



セーデルトーン大学



オックスフォード大学
ハートフォードカレッジ

アカデミック留学プログラム体験記 | ビュートカレッジ

私の留学先は、カリフォルニア州の北部・チコという田舎町でした。観光地や都市部ではなく、訪れる機会の少ない自然に囲まれた環境を選びました。印象に残っているのは、バイブルスタディに参加したこと。同年代の学生たちと人生について話し合い、思いを語る場です。初対面の人と深い話をする経験はとても新鮮であり、一人ひとりの意見を個性として尊重し合うなかで主体性が身についたと感じています。また、留学を通じて英語力だけではなく行動力が養われ、帰国後は独学でプログラミング言語を勉強するなど、何事にも積極的に挑戦できるようになりました。

留学期間：2022年8月～2023年5月
4年 須藤 真奈（神奈川県横浜市立金沢高等学校卒業）



アカデミック留学プログラム体験記 | グリーンリバーカレッジ

英語力を磨きたいと考えたこと、また、人とかがかわることが難しかったコロナ禍を経験し、国境を超えた交流を求めたことが留学のきっかけです。留学を通じて、様々な夢や目標、価値観を持った人たちと交流した経験は、自分の人生について考え直す好機となりました。もっと自分の人生を自由なものにしていこうと感じるようになり、そのために必要なことへの理解や、責任感も養うことができたと感じています。また、英語力やコミュニケーション力も向上。アルバイトで外国人の方を接客する際など、日々の生活で成長を実感しています。

留学期間：2022年9月～2023年6月
4年 近藤 絢斗（神奈川県私立桐蔭学園高等学校卒業）



アカデミック留学プログラム体験記 | フットヒルカレッジ

留学先であるカルフォルニアは「人種のるつぼ」といわれる地域です。価値観の違いなどを学びたくて選択しました。留学先ではシェアハウスに住み、そこで培ったのは自己主張する力です。もともとディスカッションでは発言に消極的でしたが、自分の考えを伝えることが大切だと学び、様々な局面で円滑なコミュニケーションが取れるようになりました。自分の意見をもって取り組むことは、働くうえでも大切だと考えます。将来は人とたくさんかわる仕事に就き、留学で得た力を活かしながら、チームとして動ける人間になりたいです。

留学期間：2022年9月～2023年6月
4年 堀内 泰佑（東京都私立成立学園高等学校卒業）



アカデミック留学プログラム体験記 | セーデルトーン大学

「海外とはどんな場所なのか」を自分の肌で感じたいという強い思いから、大学生になったら留学したいと考えていました。留学先ではたくさんのすてきな出会いに恵まれました。年齢や性別、国籍、考え方、バックグラウンド、価値観、時間感覚など、異なる部分が多くて驚きましたが、出会った方一人ひとりの「やりたいことを、やりたいときにやる」という姿がとても魅力的でした。誰とでも分け隔てなくかわれるようになり、違いに捉われずその人を見ることができるようになったと感じています。

留学期間：2023年2月～2023年6月
4年 水垣 結衣（東京都立青山高等学校卒業）



スケジュール（2026年に中長期留学プログラムで留学する学生の場合）

2025年9月上旬	募集開始	2026年1月～7月	留学先へ出願
2025年10月下旬	応募締切		留学先から入学許可
2025年10月下旬～11月下旬	学部内での選考	2026年4月	国際日本学部外国留学奨励助成金の申請
2026年1月～3月	留学先へ推薦	2026年8月～10月	留学へ出発
2026年2月～3月	インターンシップ先担当者による インターンシップ留学面接選考	2026年11月	選抜により派遣学生に助成金支給
		2026年12月末～翌年8月末	帰国

※スケジュールは変更となる場合があります。
※感染症や各国の情勢等により、プログラムを実施できない場合があります。

中長期留学プログラム アカデミック・インターンシッププログラム協定校

フロリダ州立大学

ウォルト・ディズニー・ワールド提携 アカデミック・インターンシッププログラム（有給）

フロリダ州立大学（フロリダ州都・タラハシー）で1週間程度の導入授業を履修後、フロリダ州中部のオーランドにあるウォルト・ディズニー・ワールドで実際に働きます。プログラム参加には、学部内選考に加えて、ディズニー社採用担当者による英語での面接を受け、合格する必要があります。



アカデミック・インターンシッププログラム留学体験記 | ウォルト・ディズニー・ワールド提携フロリダ州立大学

幼少期からディズニー好きだった私は、ディズニーで働きながら英語が学べる環境に惹かれ、このプログラムを志しました。初めは同僚に助けってもらってばかり。全く日本語が通じない場所で、しかも人前で話すことが苦手な私にとって大きな試練が続きました。しかし、練習を繰り返して経験を積んだ結果、尊敬する同僚からも褒めてもらえるようになり、自信につながりました。また、世界中から集まる同僚やゲストとのコミュニケーションを通し、異文化理解を深めることができました。プログラムを通じて培った継続して努力する力やチームの中で働いた経験を活かし、人を笑顔にできるような職業や世界とかわかる職業に就きたいと考えています。

留学期間：2023年8月～2024年1月

4年 千葉 めいな（東京都立豊多摩高等学校卒業）



短期留学プログラム 海外ボランティア協定校

ブディルフル大学（インドネシア）

ジャカルタ西部に位置し、1979年に創立された私立大学。学生交流や日本語・英語教師アシスタントなどのボランティア活動を通じて、社会的な課題やSDGsなどに目を向けていきます。そして、現地の学生と一緒に活動を行うことで相互理解を深め、多文化社会への適応力を高めることを目指します。



海外ボランティア体験記 | ブディルフル大学

インドネシアに根づく文化や歴史を短期間で実践的に体験できる点を魅力に感じ、参加を決めました。特に印象的だったのは、現地の中高生を対象に行った日本語や日本の伝統文化の体験型ワークショップです。私は教師として参加し、広い教室で現地の生徒たちに伝わりやすいように、文法は過度に意識せず、簡単な英語とジェスチャー、大きな声での説明を心がけました。自分の考えが正しく伝わり、生徒たちの歓声や笑顔に包まれた経験は今でも忘れられません。

プログラムを通じて、英語を駆使して、相手に分かりやすく説明できるようになったと感じています。今後、ビジネスの場はもちろん、旅行やボランティアなど、様々な局面で積極的に英語を使用していきたいです。

留学期間：2023年8月

3年 木内 彬乃（東京都私立江戸川女子高等学校卒業）



短期留学プログラム 国際日本学部認定 ICYE Japan 海外ボランティアプログラム

ICYE Japan主催海外ボランティアプログラム

ICYE Japan（※）が実施している海外ボランティアプログラムのうち、学部が指定したものに限り、国際日本学部認定海外ボランティアプログラムとして、諸条件を満たした場合に単位認定の対象としています。2024年度夏季はサンフランシスコ低所得者支援ボランティア、ベトナム児童福祉ボランティア、インドネシア日本語教育ボランティアが対象となりました。

※ICYE Japanは、特定非営利活動法人 国際文化青年交換連盟日本委員会です。



海外ボランティア体験記 | ICYE Japan主催海外ボランティアプログラム

自分と異なる社会的背景や文化に触れたいと思い、留学を決意しました。現地でも最も衝撃を受けたのは、週末の過ごし方です。サンフランシスコの人々にとって週末は家族全員で出かけることが当たり前。さらに、公園に行ってスポーツをしたり、パーティーを開いたり、SNSとは離れた生活が営まれていました。彼らの生活がストレスフリーにつながっていると感じた私は、読書、料理などの趣味を家族と共有しながら、帰国した今でもデジタルデトックスを意識した休日の過ごし方を実践しています。

短期間ではありましたが、自分の習慣や先入観を見直す良い機会になりました。今後はアメリカだけではなく、他の国の文化についても学び、自分の常識を広げていきたいです。

留学期間：2023年8月～2023年9月

2年 伊藤 由夏（埼玉県立熊谷女子高等学校卒業）



留学Q & A

Q 海外留学のための カリキュラムはありますか？

A. 国際日本学部では、留学先での学びが円滑に進むよう、英語教育に力を入れています。1年次では週6コマ、2年次では週5コマ、必修授業があり、多数のネイティブ教員が担当する20名程度の少人数クラスで学びます（英語教育についてはP.15～18参照）。また、「海外留学入門」、「異文化間教育学」、「国際教育交流論」といった留学関連の科目も設置しています。

Q 海外留学関連費用はどのようなものがありますか？ また留学費用のサポートはありますか？

A. 留学中の明治大学学費に加えて、留学に関連してかかる費用は、留学先の授業料（授業料負担型留学の場合）および生活費があります。そのほかにビザ申請料、航空運賃、海外旅行保険代金などが必要となり、為替レートの変動、現地での生活スタイルにより大きく変動しますので、事前にきちんと計画を立ててください。また、留学費用のサポートに関しては、国際日本学部アカデミック留学・インターンシッププログラム（授業料負担型）参加者に対し、経済的負担を軽減する目的で「国際日本学部外国留学奨励助成金」という助成金を支給する制度があります。

Q 毎年、何名程度の学生が留学しますか？ 留学希望者は全員、参加できますか？

A. 2024年度、明治大学全学の協定留学プログラムおよび学部間の協定留学プログラムに参加した国際日本学部の学生は約200名（短期プログラム含む）です。留学希望者は、学内選考（アカデミック・インターンシッププログラムの場合は、インターンシップ先との面接もあり）を受け、合格した留学先のプログラムへ参加することとなります。毎年希望者の約80%が留学しています。

Q 留学先での安全管理 について教えてください

A. 海外留学準備を目的とした授業「海外留学入門」や各種資料の配布などで、学生が現地でトラブルに巻き込まれないための予防策、また万が一巻き込まれた場合の対処法などについて説明をしています。さらに、海外での学生生活の不測の事態に備え、危機管理の専門会社と契約し、学内各部署や保険会社、旅行会社などとも連携できるように、安全管理策を講じています。

さらに詳しく知る

学部間協定校の情報や留学費用、各プログラムの募集要項などはホームページをご覧ください。
<https://www.meiji.ac.jp/nippon/study-abroad5.html>



多文化共生キャンパスの創成

世界から集う学生

豊富な国際経験を有した国内の学生や多様な文化的背景を持った外国人留学生を積極的に受け入れています。学生たちは、多文化コミュニティの中で国籍や民族などの違いを越えてともに学び、外国語能力や異文化理解力を磨きます。



国際日本学部は、明治大学の中では比較的小さい学部ですが、多様な文化的背景を持った学生たちがともに学ぶ多文化共生キャンパスを実現するために、アジアを中心に世界中からの留学生受け入れを積極的に推進しています。現在、国際日本学部在籍する学生の約15%が外国人留学生ですが、2020年度から留学生入試のⅠ型とⅡ型の併願を可能にするなど、門戸を広げることを目指しています。

学部の授業には「海外留学入門」、「異文化間教育学」、「多文化共生論」、「移民政策論」など、国際交流に関連した科目がいくつ

も置かれ、国際交流の理論と実践について、日本人学生と外国人留学生がともに学ぶことができます。また、「国際日本学実践科目」というユニークな科目が配置され、国際交流をテーマにした講演会やフォーラムなどを学生自身が企画し、運営することもあります。授業外でも留学生対象の就職活動行事の実施や、留学生が日本での大学生活をスムーズに送るための日本人学生サポーター制度など、留学生に対するサポート体制を充実させています。

留学生在籍数



約**280**人

※2024年9月時点
※交換留学生含む

英語で行われている講義の数



約**110**講義

※年度・学期により異なる



Topics | イングリッシュ・トラック

イングリッシュ・トラックは、国際日本学部で提供している100余りの英語による授業履修し、4年間で卒業できる英語学位プログラムです。本プログラムは、2011年度に外国人留学生を対象にスタートしましたが、国籍を問わず、より多様な背景をもった皆さんを受け入れられるように改組し、2017年度からは日本国籍をもつ学生もこのプログラムで学んでいます。

世界中から集まったイングリッシュ・トラックの学生は、英語を共通言語として相互理解を深めています。また、日本語学位プログラムの学生も、英語で行われる授業において一定の単位数を修得することが卒業要件となっているため、授業内でプログラムの垣根を越えた交流も積極的に行われています。



学生主体の活動

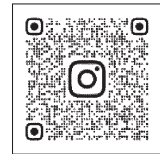
国際日本学部学生委員会 (GJSSC)



学生団体「国際日本学部学生委員会 (GJSSC)」を中心に、様々な国際交流イベントや活動を実施しています。正規留学生・交換留学生ともに多く在籍する国際日本学部ならではの雰囲気を楽しむことができます。

〈活動例〉

- ・留学生サポート
- ・スポーツ大会
- ・総武線街歩きイベント
- ・かき氷イベント
- ・地域の盆踊り大会への参加



GJSSCへの
インタビュー記事はこちら

学生コメント | 国際日本学部学生委員会 (GJSSC)

国際日本学部学生会 (GJSSC) では、主に国際交流イベントの企画・運営や、留学生サポートを行っています。現在50名ほどの学生が所属しており、広報、イベント、サポート、事務の4つのセクションに分かれて活動しています。多様な背景を持つ学生が集まるこの国際日本学部で、より多くの学生がつながりを持てるよう、様々なイベントを主催しており、これまでに開催したイベントは留学生を歓迎するウェルカムパーティーや日本文化体験など多岐にわたります。常に複数のイベントの企画が同時に進行しているので、それらの状況を把握しつつ新しいアイデアをまとめていくことは大変です

が、やりがいも感じます。より満足度の高いイベントを実現させるために、自主的に集まって話し合いを重ねることもあります。そうして時間をかけて準備したイベントに対し、参加者の皆さんから「楽しかった」「また参加したい」などの感想をいただいた時はとても嬉しく、次のイベントへのモチベーションにもなります。このように、委員生在企画・運営を通して大きな達成感を得られること、そして成長を感じられることもGJSSCの魅力です。今後も、国際日本学部を中心に中野キャンパス全体を巻き込んで、学生たちが楽しく交流できる場を提供していきたいと思っています。



2年 山口 葵
東京都私立桜美林
高等学校卒業

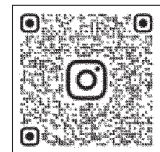
国日放題



国日放題は、「国際日本学部生へのインタビュー動画」を通して、学部の魅力、雰囲気、カリキュラム、国際的なコミュニティ、学外活動についてのリアルな情報を様々な人に発信する学生団体です。国日の授業、キャンパスライフ、課外活動などを通じて生まれた十人十色の「ストーリー」を、学生自身の語りを通してお伝えしています。

〈活動例〉

- ・国際日本学部の魅力を映像で発信



学生コメント | 国日放題

国際日本学部の特色は幅広い学問の領域と、それに伴い多岐にわたる学生の興味や視点、経験であると感じています。国日放題では、インタビューを通して一人ひとり違うストーリーを発信することで、一般の方に国際日本学や所属学生のことを知ってもらうことはもちろん、学生や卒業生、教員が学部のことを再発見するきっかけになる映像を制作することを目標にしています。コンテンツを作る私たちも国際日本学部の学生であるからこそ、インタビューの学生や教員に密接にかかわることができ、よりリアル

な声を届けることができていると考えています。また、YouTubeで投稿している長編のインタビューとは別に、Instagramでは短編の街頭インタビューやその他国際日本学部や中野の町にかかわるコンテンツも多く制作しており、「履修科目を考えるのに参考になった」「知らない中野のことを知ることができた」等の声をいただきました。国日放題はこれからも国際日本学部を伝え、そして自分も何かやってみようというチャレンジする「誰かのきっかけ」になるような映像を作り続けていきます。



3年 徳永 和香
東京都立三鷹中等教育
学校卒業

座談会

国際日本学部での学びとは？

— 多様な国際交流を通じ、豊かな素養を持ったグローバルな人材を育成 —

国際性の醸成とともに 日本の魅力を再発見できる学びの場

鈴木 賢志学部長(以下、鈴木) 皆さんが国際日本学部を志望した理由を教えてください。

伊東 馨太郎さん(以下、伊東) 海外の映画やドラマが好きで、英語を専門的に学べるグローバルな学部がある大学に進もうと考えていました。ただ、英語だけをガツガツ学ぶのは何だか違和感がありました。そんなときに出会ったのが、国際日本学部です。海外のことを学べる一方、日本についても理解を深められる。学ばならここだ！と思い受験し、無事合格。今に至ります。

本澤 奈波さん(以下、本澤) 私も日本人から見た海外、外国人から見た日本の両方について学べる点に惹かれました。加えて、独自の留学プログラムや語学力向上を図る授業が多かった点も、決め手の一つです。

KANG NAYEONさん(以下、カン) 私は韓国出身で、昔から日本のサブカルチャーの大ファンでした。本場・日本に身を置き、改めて魅力を深掘りして海外と比較することはきっと面白いはず！そう考えて、国際日本学部を志望しました。現在はポップカルチャー研究領域のゼミに所属。日本はIP (Intellectual Property) ビジネスという、漫画を原作としたドラマ・映画製作など、自社の著作物を他のメディアに展開する事業が盛んです。このビジネスをいずれもっと韓国にも取り入れられればと、学びを深める日々です。

「日本と世界をつなぐ」を キーワードに多様な学びを展開

鈴木 3人とも強い思いを持って入学してくれてうれしい限りです。実際に学ぶ中で感じた国際日本学部の魅力を、率直にお聞かせください。

伊東 多彩で自由度の高い学びが、ここにはある！ということです。たとえば、「日本と世界について学ぶ」と一口に言っても、言語・政治・文化と様々な切り口からアプローチできます。同じ分野でもアジア、ヨーロッパ、アフリカなど広域的に学べるのは国際日本学部ならではの。また、時間割を比較的自由に組むことができ、各々興味のある授業を積極的に履修しています。

鈴木 単に幅広く学ぶだけでなく、どの授業にも「世界と日本をつなぐ」という観点を必ず入れているのが国際日本学部の最大の特徴です。あまりに範囲が広すぎると自分の興味関心を絞り

切れなくなる可能性があります「世界」と「日本」をキーワードにすれば、学生の皆さんも自分の進みたい道を見つけやすいかもしれないですね。

本澤 多様な学びを経験できるというのは、同感です。また、語学力の向上についても、十分に叶えられる環境があると感じます。たとえば国際日本学部では、英語の必修科目を多く設けています。私も1年次で週6コマ、2年次では週5コマと、英語漬けの日々を送りました。低学年次のうちに語学力の基礎を築くことは、留学などで在学中の学びを支えるだけでなく、卒業後のキャリア形成においても大いに役立つと思います。

鈴木 在学中は必死に勉強していて気づかないことも多いようですが、社会に出てふとした場面で、自然と英語力が身についていたことを実感する卒業生が多いようです。情報収集・発信双方において、やはり英語力があるのは大きな強みです。得られる情報量が格段に違いますし、発信するうえでも大きなアドバンテージがあります。

カン 留学生にとって英語の授業は、英語力だけでなく日本語力も磨かれる機会だと思います。クラス制で日本人の友人をつくりやすく、日々の会話を通じ、格段に日本語力が上がりました。自ずと距離が近くなるのもよい点です。

視野を広げ、成長を促す。 自国から出て見える新たな世界

鈴木 国際日本学部ではほとんどの学生が留学を経験します。留学生活の様子や留学を通して得た気づき、成長した点などをお話してください。

伊東 私は3年次にニューヨーク州立大学ニューパルツ校に留学しました。現地では文化人類学を中心に学習。大学が一般の学生向けに開講している授業を履修しましたが、最初はいくのに必死だったのを覚えています。英語力の面でもそうです



国際日本学部長
鈴木 賢志



東京都私立国学院大学久我山高等学校卒業
4年 伊東 馨太郎



長野県松本深志高等学校卒業
3年 本澤 奈波



韓国・ソウル文化高等学校卒業
3年 KANG NAYEON

が、その土地ならではの文化を理解するところからスタートせねばならず、苦労しました。留学生活で印象深かったのは、主に次の二つです。一つは学生の学びに対する熱意です。ディスカッションでしっかり自分の意見を戦わせる姿などからは大いに刺激を受けました。もう一つは、言葉の使い方にも多様性が現れるということ。英語で三人称を使う場合、女性なら普通はSheやHerを使うと思うのですが、そう呼ばれたくない人もいます。He、Him、あるいは(性別を断定されたくないときなどは) They、Themを用いてほしいと言われたことも。日本だともう少し言葉のバリエーションがあるので気にならなかったことですが、海外に出てみて初めて気づくこともありますね。留学が終わる頃には語学力も上がり、海外でもやっていけるかもしれないという自信がついていました。次のステップとして、翌年はオーストラリアでのワーキングホリデーにも参加。独力で家・職探しから始め、知人もいない国に1年ほど滞在できるまでになりました。



本澤 アメリカ・フロリダ州立大学のウォルト・ディズニー・ワールド提携のアカデミック・インターンシッププログラムに参加しました。留学先の授業の一環で現地のディズニー・ワールドにスタッフとして勤務し、働いた分の賃金が支給されます。他のスタッフ同様、労働の対価を得ている緊張感を持って仕事に臨みました。一見ワーキングホリデーと違いがないように見えますが、このプログラムでは渡航前の面談で設定した目標に対し、都度大学からフィードバックを受けられるという利点があります。おかげで、都度目標に対する達成度を確認でき、滞在を有意義なものにできました。今では頻繁に連絡を取り合うほど仲のよい友人もでき、メンタルも強くなりました(笑)。アメリカのホスピタリティを学び、日本との比較ができた点も大きな収穫だったと感じます。日本の接客は「おもてなし」を重んじる一方、アメリカは「一緒に楽しむ姿勢」を大切にしています。日本のサービスの質は海外の方からも定評がありますが、両方経験してみた結果、日本にも海外にもそれぞれのよさがあると実感しました。

カン 私も日本に留学して、新たな発見がありました。たとえばK-POPに関しては、一見、韓国が日本に強い影響を与えているように見えますが、実は韓国のアイドル育成のシステムも一部日本の仕組みを取り入れているところがあります。国が近い分、互いにより影響を及ぼし合うことが多いのかとうれしく思いました。また、学びの中で、日本には各国のサブカルチャーの情報が集まってくることも実感。様々な国に影響を与えている一方、他国の影響も柔軟に受け入れている日本



の姿に改めて魅力を感じます。

為すべきことを見出した先に待つ 可能性に満ち溢れた未来

鈴木 今後の展望と、国際日本学部への入学を目指す方々へのメッセージをお聞かせください。

伊東 広告会社に就職し、海外のクライアントに向けた提案などを行う予定です。アメリカ留学中に現地の広告に触れ、ダイレクトで時に皮肉の利いた表現に興味をそられたのがきっかけでした。留学・ワーキングホリデーを経験し、海外で戦える素地が身についた実感があったので、バイリンガル向けの就職セミナーに参加。そこで就職先との出会いを果たしました。国際日本学部では、視野を広げてくれる多彩な学びを展開しています。学ぼううちに興味の幅が広がり、自ずと将来の方向性も見えてくるのではないのでしょうか。

本澤 アカデミック・インターンシッププログラムを経て、自分は英語というより、誰かとコミュニケーションを図るのが好きなんだと改めて実感しました。就職活動では「人を楽しませる、喜ばせる」という観点で、サービス業界やエンタメ業界などの企業を受けてみようと思います。国際日本学部を志望する皆さんにお伝えしたいのは、ここには自分を成長させられる環境があるということです。切磋琢磨する仲間、多様で柔軟なカリキュラム、魅力的な先生方に支えられ、一皮剥けた自分になれること間違いなしです！

カン 大学時代に得た知見をもとに、今度は日本以外の国のエンタメの魅力を発掘・発信するのも面白いと考えています。特に、台湾や香港など、同じアジア圏の国々のエンタメに関わりたいという思いがあります。出版業界か広告業界か、広報を担当するのか制作に携わるのか……。まだ進路は絞り切れていませんが、将来の自分を想像して今からワクワクしています。大学は好きなことを学べる場所。高校までとは違い、ひたすら興味のある学びに突き進んでいけます。社会に出る前に、皆さんにはぜひ大学で「好き」を追求してほしいです。国際日本学部の授業は、内容も実施方法も多岐にわたります。まだ自分の興味が定まらない人は、ぜひ色々チャレンジしてみてください。具体的な将来像を描けるヒントが得られるはずです。

鈴木 明治大学は144年前に「権利・自由・独立自治」を掲げてつくられた大学です。明治維新という日本社会の大きなうねりの中、若者たちが「自分は何を為すべきか」と悩んでいた時代でした。国際日本学部は大学のマインドに則り、「国際」「日本」という切り口で、学生たちが各々希望を実現する権利自由、能力開発の機会を得るための「独立自治」を体現しています。皆さんが学びの中で、そうした気風を感じとってくれたら、こんなにうれしいことはありません。



学部長YouTubeはこちら

キャリア形成

明治大学では、「就職キャリア支援センター」において、学生の皆さんに能力や特性を生かすことのできる進路や職業を選択してもらうための支援業務を行っています。具体的には、個人・グループでの就職・進路相談、就職筆記試験や面接対策講座、インターンシップ関連支援、各種セミナーなどを行っています。

また、国際日本学部でも、学部独自のキャリア支援として、留学生やイングリッシュ・トラック学生を対象としたイベントを開催したり、インターンシップ参加に対して単位を付与するなど、学生のキャリア形成を積極的にサポートしています。

1
2
年次

4～5月
キャリアデザインガイダンス
Meiji Job Trial オリエンテーション
10月
キャリアデザイン講座

3
年次

4月
進路・就職ガイダンス
6～7月
企業人による集団模擬面接会
7月
グループディスカッション実践会
9月
就職ガイダンス
9～10月
業界・企業研究基礎講座
10月
自己分析講座
エントリーシート対策講座
コンピテンシー診断講座
面接対策講座
グループディスカッション基礎講座
10～11月
内定者座談会
企業理解促進セミナー
11～12月
企業（職場）見学会
11～1月
企業人事による集団模擬面接会
企業人事によるグループディスカッション実践会
12月
【留学生】面接対策講座
Job Hunting Guidance
1月
～本番直前～就活総まとめ講座

4
年次

7月
学内合同企業セミナー
6～8月
学内企業選考会
11月
学内企業選考会

中野キャンパスでの主な支援行事

就職キャリア支援室



1年次から随時進路相談を行うなど、数多くのキャリア支援行事を開催。「入口から出口まで」の一貫した支援体制を構築し、学生一人ひとりの「個」に合わせたキャリアデザインをサポートします。

※スケジュール・行事は変更となる場合があります。

大学院国際日本学研究科

国際日本学部で得た知識をより高度に発展させ、国際社会で広く活躍できる人材の養成を目的として、大学院国際日本学研究科を設置しています。本研究科には、ポップカルチャー研究、日本社会・産業システム研究、多文化共生・異文化間教育研究、日本語学・日本語教育学研究、英語教育学研究、文化・思想研究といった幅広い研究領域があり、それらの有機的関連

の中で研究のさらなる深化を図るとともに、他研究領域とも積極的に交流し、時代に即応した人材を育成します。また、規定の条件を満たせば、大学院科目の先取り履修が可能で（学部の卒業要件には算入されないが、大学院進学後に単位として認定）、さらに早期卒業制度を利用することで、学部と研究科を合わせた5年間で修士の学位を取得することもできます。

学生コメント | 早期卒業制度を活用すれば、最短5年で修士学位取得も

明治大学の国際日本学部には、既定の条件を満たせば通常よりも1年早く卒業ができる早期卒業制度があります。私はこの制度を活用し、学部3年+博士前期課程2年の合計5年で修士の学位を取得しました。経済的な負担を軽減しながら短期間で学位を取得できるこの制度は、大学院進学への大きな後押しとなりました。

国際日本学研究科の魅力は、なんと言ってもその学際的な環境と、学生間の交流の活発さにあると思います。多様な研究領域を併せ持つ国日研では、ゼミの先輩後輩という縦のつながりだ

けでなく、必修科目の履修や、年に数回行われる研究報告会を通して、自分とは全く異なる分野を専攻している学生と関わる機会も多くあります。

自分の専門性を高めながら、同時に他分野についての知見も広めることのできる国日研の環境は、修士学位の取得を目指す学生にとってはもちろんのこと、研究者を志し、博士後期課程への進学を検討している人にとっても大変恵まれたものだと感じます。

皆さんと研究ができる日を、国日研でお待ちしております。

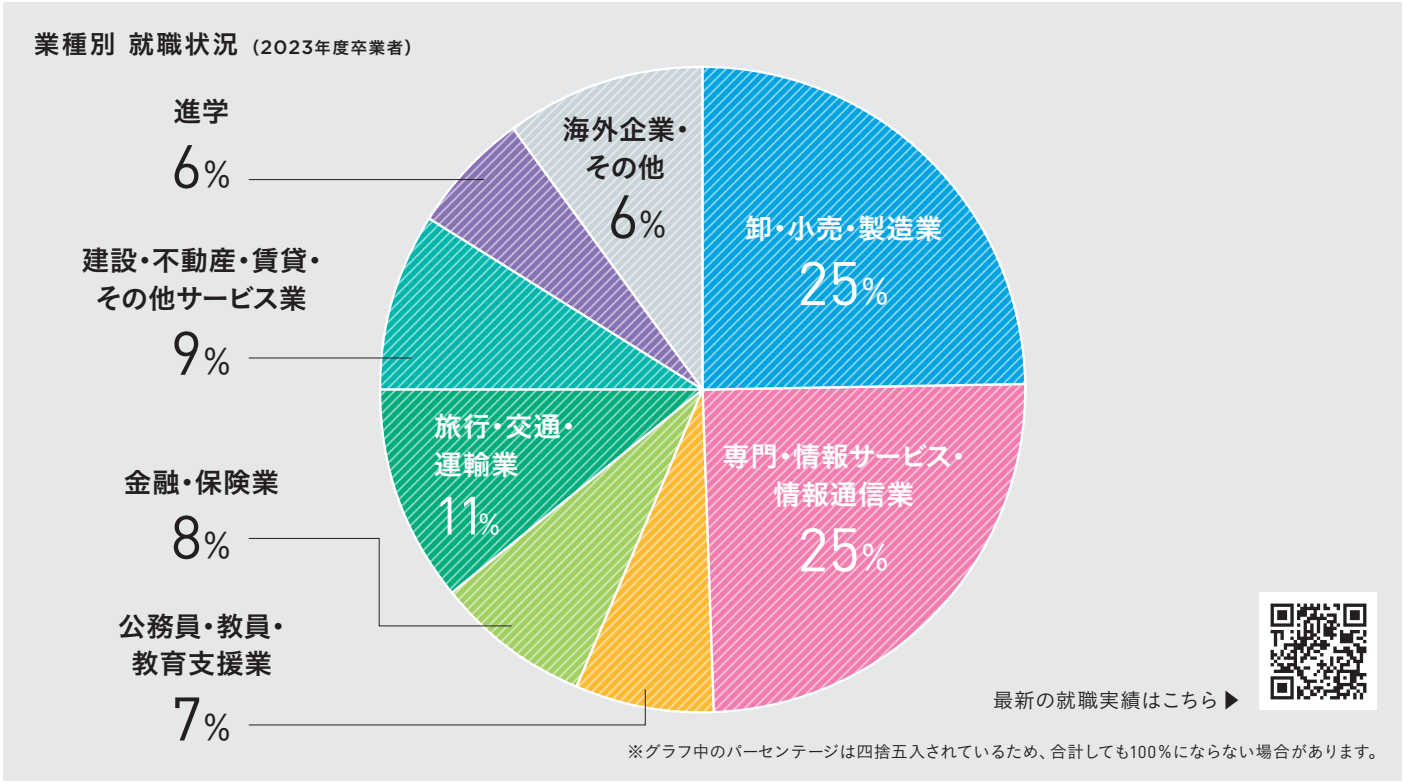


芹澤 凜香
国際日本専攻
博士後期課程 1年
指導教員:小谷 瑛輔 教授

就職実績

国際日本学部は、日本の文化や社会に対する深い理解と国際的な感覚をもち、21世紀のグローバル社会で活躍できる優れた人材を育成することを目指しています。また、国際化する企業ではグローバルマインドをもつ人

材がますます求められており、国際日本学部への関心も高まっています。下記の業種別就職状況から分かるとおり、国際日本学部で培った能力を発揮できる将来の活躍の場は、多岐にわたります。



主な就職先企業・団体名

※主な就職先の抜粋です。 ※順不同

卸・小売・製造業 ●アマゾンジャパン(同) ●三和商事(株) ●P&Gジャパン(合) ●丸紅(株) ●(株)ユニクロ ●大塚製薬(株) ●(株)キーエンス ●(株)バンダイ ●(株)日立製作所 ●富士通(株)	金融業・保険業 ●アフラック生命保険(株) ●SMBC日興証券(株) ●第一生命保険(株) ●三井住友海上火災保険(株) ●大和証券(株) ●野村證券(株) ●ブルデンシャル生命保険(株) ●(株)みずほフィナンシャルグループ ●(株)三井住友銀行 ●三菱UFJ信託銀行(株)
専門・情報サービス・情報通信業 ●キリンホールディングス(株) ●デロイトトーマツコンサルティング(合) ●(株)電通 ●(株)日本総合研究所 ●(独)日本貿易振興機構 ●(株)博報堂プロダクツ ●伊藤忠テクノソリューションズ(株) ●(株)NTTドコモ ●日本アイ・ビー・エム(株) ●楽天グループ(株)	旅行・交通・運輸業 ●(株)近鉄エクスプレス ●日本通運(株) ●日本航空(株) ●(株)星野リゾート・マネジメント ●(株)エイチ・アイ・エス ●(株)オリエンタルランド ●(株)JTB ●(株)東京ドーム ●東武トップツアーズ(株) ●(同)ユー・エス・ジェイ
公務員・教員・教育支援業 ●教員 ●地方公務員(県庁・市役所・区役所等) ●外務省 専門職員 ●防衛省 専門職員 ●国税専門官 ●(株)湘南ゼミナール	建設・不動産・賃貸・その他サービス業 ●鹿島建設(株) ●ミサワホーム(株) ●オリックス(株) ●セコム(株) ●テプコ・ソリューション・アドバンス(株) ●(株)リクルート

Topics | 資格取得

専門的な資格を取得し、将来の進路に生かしたいと考えている皆さんのために、本学では学部の授業に加え、所定の単位を修得することにより、教員免許状・学芸員・社会教育主事・司書・司書教諭の5つの資格を取得することが可能です。

本学で取得可能な教員免許

- 中学校および高等学校教諭一種免許状「英語」
- 中学校教諭一種免許状「社会」
- 高等学校教諭一種免許状「地理歴史」「公民」

Topics | 各種助成

学生の皆さんの挑戦をサポートするため、国際日本学部では以下の受験料助成を用意しています。

対象試験 一覧

- | | |
|--------------------------------|-------|
| ● TOEFL iBT [®] | 1年生 |
| ● TOEIC [®] L&R 公開テスト | 3・4年生 |
| ● ニュース時事能力検定 準2級以上 | 全学年 |

卒業生メッセージ

その先へと目を向け、やりたいことを実現できる力を獲得。

梶原 合翔

2023年卒業

京セラ株式会社 勤務

私は、工場の総務担当として、職場環境をマネジメントし、従業員の安全と健康を確保する部署で働いています。法令を一から学びつつ資格を取り、日々、作業環境の改善に励んでいます。在学中は、英語だけで情報処理ができるよう、英語力向上のためのカリキュラムを履修しました。ほかにも多種多様な講義があり、世界の中の日本、そこに暮らす自分自身について、多視座から理解を深めました。国際日本学部には聞く・話す・読む・書く4技能を徹底的に磨くことのできる環境があるため、努力することで確実に英語力が向上します。さらに、多様な文化的背景や国際経験を持つ教員による講義、学問分野を横断した授業履修など、自分なりの学びを選択できます。自分がやりたいことを実現できる人生にするために、皆さんがこれから多くの気づきを得られますよう、このメッセージを送ります。



国際日本学部の学びは一生の武器。いつか世界を舞台に仕事を。

柴田 恒

2023年卒業

神奈川県立鶴見総合高等学校 勤務

現在、高等学校の英語教諭として現代社会に必要な英語を教えています。生徒から「英語が好きになった」「英語を勉強する大切さに気づいた」といった言葉をもらうことで、教える楽しさを日々実感しています。大学在学中に受けた英語の授業はどれも印象的で、仕事に自信を持って取り組むうえで心の支えに。また、授業をデザインするのに国際日本学部の「世界から見た日本を学ぶ」という視点を取り入れています。修士課程を含めて6年間になりますが、その学びは人生に大きな影響を与えてくれました。現在は教職に就いていますが、今後の人生の目標は世界を舞台に仕事をする。グローバル化が進む現代社会で、国際日本学部での学びを通して培ったものは一生の武器となります。皆さんもこの学部で世界を舞台に活躍できる人材を目指してぜひ頑張ってください。



学部で学んだ「多文化共生」の考えを広め、よりよい社会へ。

大島 沙也

2023年卒業

フォースバレー・コンシェルジュ株式会社 勤務

世界中から国境を越えたハイスکیل人材の採用定着支援を行うベンチャー企業に勤務。入社後すぐ、外国籍の方が日本で生活しやすくなるサービスを創り、ビジネスとして成立できるようにする新規事業の立ち上げプロジェクトを任されました。ベンチャーならではの刺激的な経験をしている毎日です。もともと「多文化共生」を学ぶために国際日本学部に進学。「多文化共生のまちづくり」をテーマに掲げる山脇啓造教授ゼミでの学びが今の仕事に直結しています。今後は事業開発のスキルを身につけ、多文化共生社会の推進に役立つビジネスをつくるのが夢。国際日本学部は、国際的な視野を持ちながら幅広く勉強したい人に最適だと思います。行動力があり、多様な考え方を持つ人が多く、刺激的な日々を送れるはず。皆さんの大学生活が学び多く豊かになるよう祈っています。



中野キャンパス

国際化

海外の学生が留学しやすい環境を提供するため、英語で学位を取得できるコースの設置や受入れ体制の整備を行っています。また、留学生と切磋琢磨する環境で、国際的に活躍できる人材を育成し、本学学生を数多く海外に送り出すための諸制度も整備。中野キャンパスは、「世界に開かれた大学」を目指し、高等教育で社会のグローバル化をリードしていきます。

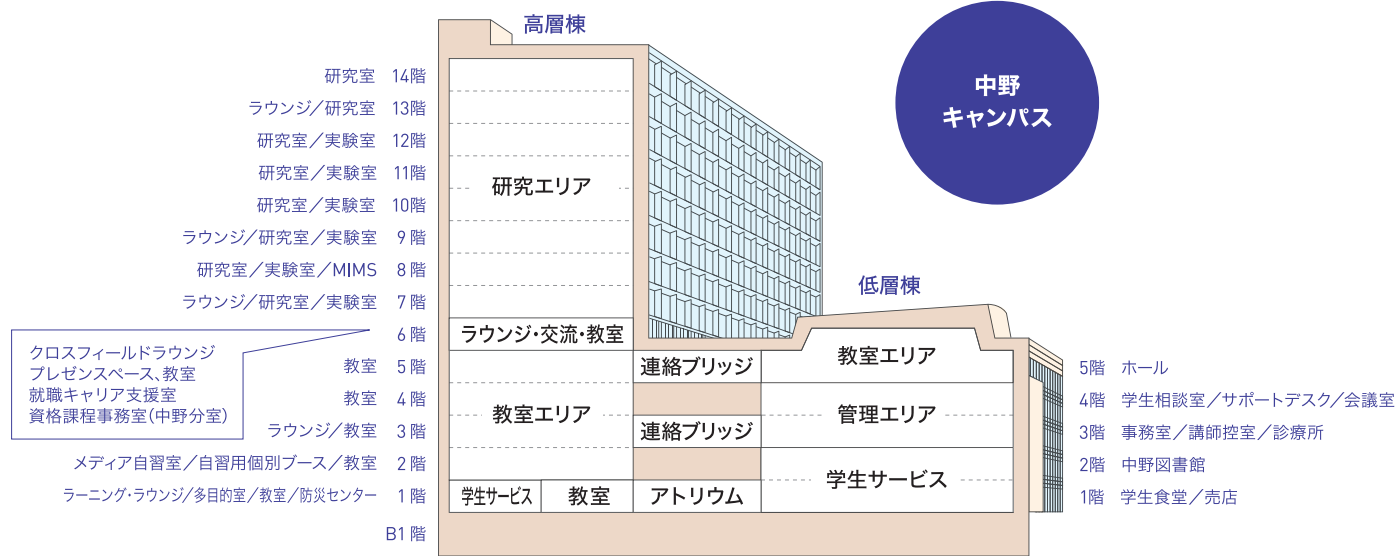


社会連携

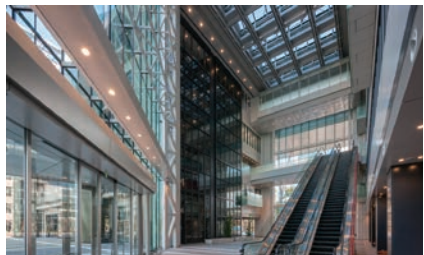
自治体や他大学、さらには研究機関、企業との連携および国際連携を推進し、広く社会に貢献していきます。その一環として、中野キャンパスでも様々な生涯学習講座を開講しています。また、国際日本学部では特に地域連携に力を入れ、ゼミや国際日本学実践科目などの科目や国際日本学部学生委員会の活動を通して、中野区のまちづくりに参加しています。

先端研究

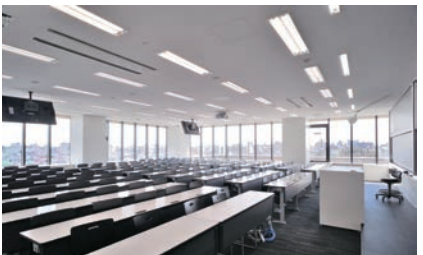
先端数理(現象数理)に加えて、ほかの理系や文系についても、本学を代表する先端研究として育成します。これらが拠点となり、国内外の研究者などとの研究交流を図り、シンポジウム、共同研究プロジェクトなどを推進し、研究成果を外部に発信します。



Topics 中野キャンパスの主な施設



アトリウム



教室



中野図書館



学生食堂



ラーニング・ラウンジ



クロスフィールドラウンジ

入試情報

明治大学は、一般選抜入試（学部別入試・全学部統一入試・大学入学共通テスト利用入試）すべてにおいて、Web出願を導入しております。パソコン・スマートフォン・タブレットから出願できます。
※詳細は、必ず、一般選抜要項（明治大学ホームページにて11月上旬公開予定）をご確認ください。 ※特別入試・推薦入試では、Web出願を行いません。

学部別入学試験 ※英語4技能資格・検定試験を活用します。詳しくは入試ガイドおよび一般選抜要項をご確認ください。

方式	募集人員	時限	試験時間	【新教育課程科目】		配 点	試験場	
				出題教科・科目				
2科目方式	80名	1時限	60分	国 語	『国語』（現代の国語、言語文化） ※漢文の独立問題は出題しない	150点	本学キャンパスのみ ※中野・生田キャンパスは使用しません。	
		2時限	80分	外国語	『英語』（英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ）	200点		
		合 計 （2科目）		350点				
英語4技能試験活用方式	70名	1時限	60分	国 語	『国語』（現代の国語、言語文化） ※漢文の独立問題は出題しない	150点		
		—	—	—	（英語4技能資格・検定試験のスコアを出願資格として利用）	—		
		合 計 （1科目）		150点				
大学入学共通テスト併用型3科目方式	20名	1時限	60分	国 語	『国語』（現代の国語、言語文化） ※漢文の独立問題は出題しない	150点		
		2時限	80分	外国語	『英語』（英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ）	200点		
		下記の科目から1科目を選択。2科目を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。第1解答科目・第2解答科目にかかわらず合否判定対象とする。						100点
		—	—	地理	大学入学共通テスト『歴史総合、世界史探究』			
		—	—	歴史	大学入学共通テスト『歴史総合、日本史探究』			
合 計 （3科目）		450点						
大学入学共通テスト併用型英語4技能試験活用方式	20名	1時限	60分	国 語	『国語』（現代の国語、言語文化） ※漢文の独立問題は出題しない	150点		
		—	—	—	（英語4技能資格・検定試験のスコアを出願資格として利用）	—		
		下記の科目から1科目を選択。2科目を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。第1解答科目・第2解答科目にかかわらず合否判定対象とする。						100点
		—	—	地理	大学入学共通テスト『歴史総合、世界史探究』			
		—	—	歴史	大学入学共通テスト『歴史総合、日本史探究』			
合 計 （2科目）		250点						

2026年	出願期間（消印有効）	入学試験日	合格発表日時	入学手続締切日（消印有効）
	【1月6日（火）～1月22日（木）】	2月9日（月）	2月16日（月）9：30	3月2日（月）

全学部統一入学試験 ※英語4技能資格・検定試験を活用します。詳しくは入試ガイドおよび一般選抜要項をご確認ください。

方式	募集人員	時限	出題教科・科目		配点	試験場	
3科目方式	20名	1時限	外国語	「英語」（英語コミュニケーションⅠ～Ⅲ、論理・表現Ⅰ～Ⅲ）※配点100点を200点に換算する。	200点	東京 （駿河台・和泉・中野キャンパス） 神奈川 （生田キャンパス） 札幌 仙台 名古屋 大阪 広島 福岡	
		2時限	国語	「国語」（現代の国語、言語文化）※漢文を除く	100点		
		下記の4教科8科目から1科目選択。2科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。					
		3時限	地理歴史、公民、理科	地理歴史（「歴史総合、世界史探究」「歴史総合、日本史探究」「地理総合、地理探究」、公民（「公共、政治・経済」、理科（「物理」「物理基礎、物理」、「化学」「化学基礎、化学」、「生物」「生物基礎、生物」）から1科目選択	100点		
		4時限	数学	「数学」（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」）			
合 計 （3科目）					400点		
英語4技能3科目方式	25名	—	◇外国語	◇英語4技能資格・検定試験のスコアが所定の基準を満たす者のみ出願可能。1時限目外国語の試験は免除とし、スコアに応じた得点を「英語」の得点として付与する。なお1時限目外国語を受験した場合でも、その得点は利用しない。 ※配点100点を200点に換算する。	200点		
		2時限	国語	「国語」（現代の国語、言語文化）※漢文を除く	100点		
		下記の4教科8科目から1科目選択。2科目を受験した場合には、高得点の科目を合否判定に利用する。					
		3時限	地理歴史、公民、理科	地理歴史（「歴史総合、世界史探究」「歴史総合、日本史探究」「地理総合、地理探究」、公民（「公共、政治・経済」、理科（「物理」「物理基礎、物理」、「化学」「化学基礎、化学」、「生物」「生物基礎、生物」）から1科目選択	100点		
		4時限	数学	「数学」（数学Ⅰ、数学Ⅱ、数学A、数学B「数列、統計的な推測」、数学C「ベクトル」）			
合 計 （3科目）					400点		
2026年	出願期間（消印有効）		入学試験日		合格発表日時	入学手続締切日（消印有効）	
	[1月6日（火）～1月16日（金）]		2月5日（木）		2月16日（月）9：30	3月2日（月）	

※試験地については、東京・神奈川・札幌・仙台・名古屋・大阪・広島・福岡の8会場の中から1つを受験生が出願時に選択します。
ただし、東京（本学キャンパス）では駿河台キャンパス・和泉キャンパス・中野キャンパスの選択はできません。また、志願状況により、神奈川（本学キャンパス）を選択しても東京（本学キャンパス）となる場合があります。

大学入学共通テスト利用入学試験

方式	募集人員	【新教育課程科目】				配 点	
		出題教科・科目					
3科目 方式	30名	国 語	『国語』			200点	
		外国語	『英語』 ※リーディング100点、リスニング100点とする。			200点	
		下記の科目のうちから1科目を選択。2科目以上を受験した場合には、高得点の科目の成績を合否判定に利用する。「地理歴史」「公民」および「理科」は、第1解答科目・第2解答科目にかかわらず合否判定対象とする。 ※大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。					
		地理歴史	『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』			200点	
		公 民	『公共、倫理』、『公共、政治・経済』				
		数 学	『数学Ⅰ、数学A』、『数学Ⅱ、数学B、数学C』				
		理 科	『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』				
情 報	『情報Ⅰ』						
合 計 （3科目）					600点		
5科目 方式	15名	国 語	『国語』			200点	
		外国語	『英語』 ※リーディング100点、リスニング100点とする。			200点	
		数 学	『数学Ⅰ、数学A』 ※大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。			200点	
		下記の科目のうちから2科目を選択。3科目以上を受験した場合には、高得点の2科目の成績を合否判定に利用する。同一教科内について、2科目の使用も可。「地理歴史」「公民」および「理科」は、第1解答科目・第2解答科目にかかわらず合否判定対象とする。 ※大学入学共通テストの配点100点を200点に換算する。					
		地理歴史	『地理総合、地理探究』、『歴史総合、日本史探究』、『歴史総合、世界史探究』			400点 (200点×2)	
		公 民	『公共、倫理』、『公共、政治・経済』				
		数 学	『数学Ⅱ、数学B、数学C』				
理 科	『物理基礎／化学基礎／生物基礎／地学基礎』、『物理』、『化学』、『生物』、『地学』						
情 報	『情報Ⅰ』						
合 計 （5科目）					1000点		
2026年	出願期間（消印有効）		入学試験日（大学入学共通テスト）	合格発表日時	入学手続締切日（消印有効）		
	【1月6日（火）～1月16日（金）】		【1月17日（土）・1月18日（日）】 「令和8年度大学入学共通テスト受験案内」を参照してください。	2月16日（月）9：30	3月2日（月）		

※個別学力検査等は課しません。

特別入試 ※詳細については、各入試要項をご確認ください。

試験種類	募集人員	出願期間	入学試験日		試験科目
外国人留学生入学試験（Ⅰ型）	40名	2025年8月27日（水）～ 9月3日（水）	第一次選考	—	書類選考
			第二次選考	2025年12月13日（土）	口頭試問
外国人留学生入学試験（Ⅱ型）			—		書類選考
自己推薦特別入学試験	12名	2025年9月15日（月）～ 2025年9月19日（金）	第一次選考	—	書類選考
			第二次選考	2025年11月29日（土）	小論文・口頭試問
イングリッシュ・トラック入学試験	9月入学	2026年2 ～ 3月（予定）	第一次選考	—	書類選考
			第二次選考	2026年5月（予定）	口頭試問（オンライン）

英語4技能資格・検定試験の活用について ※詳しくは入試ガイドおよび一般選抜要項をご確認ください。

【学部別入学試験】

国際日本学部の学部別入学試験（2026年2月9日実施）における英語4技能試験活用方式・大学入学共通テスト併用型英語4技能試験活用方式の志願者で、下記の英語4技能資格・検定試験のいずれかが、所定の基準を満たし、出願時に所定の証明書類を提出できる者のみ出願が可能です。

※スコアの証明書類は2024年1月1日以降に受験（実用英語技能検定については、証明書記載の受験回が2023年度第3回以降のものを有効とする）し、かつ出願締切日までに提出できる1種類かつ1回のものに限りま。提出後の証明書類の差し替え、返却はできません。

①合否の判定

●英語4技能試験活用方式

「国語」（配点150点）の1科目の得点で合否を判定します。

●大学入学共通テスト併用型英語4技能試験活用方式

「国語」（配点150点）「地理歴史（大学入学共通テスト）」（配点100点）の2科目の総合点（計250点満点）で合否を判定します。

②同一試験日における学部内方式間併願

英語4技能試験活用方式、大学入学共通テスト併用型英語4技能試験活用方式、両方式の併願が可能です。なお、英語4技能試験を活用しない2科目方式、大学入学共通テスト併用型3科目方式と併願する場合は、国際日本学部学部別入学試験当日における2時限目『外国語「英語」』の受験が必須です。

③出願時に必要な等級またはスコア基準（等級または総合スコア）

（英語4技能試験活用方式・大学入学共通テスト併用型英語4技能試験活用方式共通）

試験の種類	必要なスコア
実用英語技能検定（英検）【従来型、S-CBT、S-Interview】	準1級以上
TEAP ※4技能パターンに限る ※TEAP CBTは不可	309以上
TOEFL iBT ※Home Editionは不可 ※「MyBest Scores」の活用は不可	72以上
IELTS（アカデミックモジュールに限る） ※IELTSコンピューター版含む ※IELTS Onlineは不可 ※「One Skill Retake」の活用は不可	5.5以上
TOEIC L&R & TOEIC S&W ※IPテストのスコアは不可	L&Rで785以上かつ S&Wで310以上
GTEC（CBTタイプに限る）	1180以上
ケンブリッジ英語検定 ※Linguaskillは不可	160以上

【全学部統一入学試験】

全学部統一入学試験（2026年2月5日実施）における国際日本学部英語4技能3科目方式の志願者で、下記の英語4技能資格・検定試験のいずれかが、所定の基準を満たし、出願時に所定の証明書類を提出できる者のみ出願が可能です。

※スコアの証明書類は2024年1月1日以降に受験（実用英語技能検定については、証明書記載の受験回が2023年度第3回以降のものを有効とする）し、かつ出願締切日までに提出できる1種類かつ1回のものに限りま。提出後の証明書類の差し替え、返却はできません。

●全学部統一入学試験・英語4技能3科目方式

①合否の判定

1時限目『外国語』の試験は免除とし、

所定の等級またはスコアに応じて『外国語「英語」』の得点換算点を付与します。
『英語4技能資格・検定試験に応じた得点換算点』と、『2・3・4時限目において学部・方式が指定する科目の合計点』との総合点で合否を判定します。

②同一試験日における学部内方式間併願

国際日本学部の英語4技能3科目方式と、3科目方式の併願が可能です。併願する場合は、全学部統一入学試験当日における1時限目『外国語「英語」』の受験が必須です。

③出願および得点換算に必要な等級または総合スコア（最低点）

試験の種類	英語4技能3科目方式（『外国語』配点：200点）得点換算点		
	160点	180点	200点
実用英語技能検定（英検） 【従来型、S-CBT、S-Interview】	2級合格かつCSE2.0スコア1980 ^(注1)	2級合格かつCSE2.0スコア2088 ^(注1)	準1級合格 ^(注1)
TEAP ※4技能パターンに限る ※TEAP CBTは不可	225	253	309
TOEFL iBT ※Home Editionは不可 ※「MyBest Scores」の活用は不可	42	52	72
IELTS（アカデミックモジュールに限る） ※IELTSコンピューター版含む ※IELTS Onlineは不可 ※「One Skill Retake」の活用は不可	4.0	4.5	5.5
TOEIC L&R & TOEIC S&W ※IPテストのスコアは不可	総合スコアで790かつ L&Rで550かつS&Wで240	総合スコアで890かつ L&Rで625かつS&Wで260	総合スコアで1095かつ L&Rで785かつS&Wで310
GTEC（CBTタイプに限る）	930	1013	1180
ケンブリッジ英語検定 ※Linguaskillは不可	140	147	160

（注1）実用英語技能検定について
○得点160点・180点換算は2級合格者のCSEスコア（CSE2.0）を活用します。他の級で同等のCSEスコアを有していても得点換算の対象となりません。
○得点200点換算については準1級以上の級合格者を対象とし、CSEスコアは活用しません。

明治大学国際日本学部がわかる 9つのポイント

「国際日本」って?

目的をもったリベラルアーツ



日本と世界
をつなぐ!

グローバルな進路

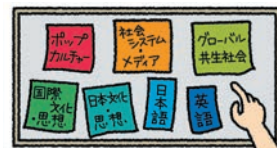
あらゆる舞台で活躍



世界とつながる
働き方

学科・科目

組み合わせて化学反応を



1学科7領域から
選び放題

国際・留学

体験を通して世界とつながる



洗練された
国際感覚を

英語

4技能を徹底して磨く



少人数のレベル別

社会の最先端を学ぶ

eスポーツから生成AIまで



社会の変化・変曲点
を読む

多文化共生

世界各国から集う仲間



5人に1人
が留学生

日本語

日本を学ぶ日本語



少人数のレベル別

ゼミナール

アクティブにつながる



2年生から

詳しくはこちらを **CHECK!**

受験生のための学部選択ガイド Step into Meiji University

<https://www.meiji.ac.jp/stepinto/nippon>



@meijisexa

一人ひとりにぴったりの入試やイベントの情報を
お知らせ。LINEだけのイベントもやってるよ!!



登録してくれた?

● 明治大学入試総合サイト

<https://www.meiji.ac.jp/exam/>

